

(研究者) 五十嵐良雄 メディカルケア虎ノ門 院長

研究要旨；

うつ病リワーク研究会所属の施設と利用者を対象とし、リワークプログラム(以下プログラム)の実施状況を毎年1日調査している。今回は9回目の調査であったが、201 医療機関のうち166 医療機関から回答を得た(回答率(82.6%)。病院が42.8%、診療所が57.2%で比率は昨年より診療所が4.4%増加した。復職支援(以下リワーク)以外の対象者をプログラムで受け入れている施設は47.6%あり、対象者は「社会適応技術の習得を目的とした発達障害者(思春期、成人とも)」、「社会生活機能改善を目的とした主に統合失調症患者」、「居場所の提供を目的とした慢性期精神疾患患者」の順で多かった。診療報酬上、最も多い区分は精神科デイケアで66.3%、週5日の開催は55%であった。スタッフの業務のうち1日あたりの個別記録作成時間は平均126.3分であった。現在運用されているリワーク施設全体の定員は3,633人であり、1施設平均は22.8人であった。166施設で合計975名のスタッフが勤務していたが、心理職が最も多く全体の31.7%を占め、看護師、精神保健福祉士、作業療法士と続いた。プログラムの開始にあたり91.0%の施設では開始条件を定めており、主治医変更を求めている施設は53.6%であった。プログラム開始までの待機期間は9.6%の施設であり、平均46.1日であった。利用にあたって一定のステップを設けている施設は74.1%であった。スタッフによる評価を実施している施設は86.1%であり、うち「標準化リワークプログラム評価シート」は79.4%の施設で利用されていた。76.5%の施設で他院の患者を受け入れており、うち81.8%の施設が主治医と文書で連絡を取っていた。復職時の勤務先企業の産業医・産業保健スタッフに対する連絡・調整の方法は、書面が最も多く62.5%、診察時が27.1%であった。人事労務担当者に対しての連絡・調整の方法も産業医・産業保健スタッフと同様に書面、診察時の順に多かった。復職後のフォローは外来診療が最も多く79.5%で、復職後のフォローアッププログラムを実施している施設は51.8%であった。プログラムの内容に関し166施設1,683プログラムを実施形態毎に5区分に分けたところ「集団プログラム」が3割弱、「その他のプログラム」と「特定の心理プログラム」が2割強であった。医療機関毎にみると5区分すべてに該当するプログラムを実施している医療機関は52%、4区分に該当している医療機関は26%であった。平成28年10月の7日間に登録されていたプログラム利用者3,134人について個別調査を実施した。休職回数は、平均2.1回、総休職期間は平均600日であった。利用者のICD-10による診断の内訳は、F3気分(感情)障害が78.1%、F4神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性が13.7%であった。また、DSM-5による双極Ⅱ型障害の可能性のある利用者は28%、自閉症スペクトラム障害(ASD)や注意欠陥・多動性障害(AD/HD)の可能性のある利用者は26%であった。

研究協力者

林俊秀：うつ病リワーク研究会、メディカルケア虎ノ門

1. 調査目的

気分障害等で休職する労働者を対象としたリワークプログラムは、全国の医療機関に広がりつつある。うつ病リワーク研究会は、リワークプログラム（以下プログラム）を行う医療機関による研究会であり、2017年5月16日現在、同研究会会員であるプログラムを行う医療機関は46都道府県215施設である。

本調査は、同研究会において毎年行っている調査であり、医療機関で行われるプログラムの運営状況と利用者の背景を明らかにすることを目的としている。

2. 調査方法

2016年11月1日現在における、うつ病リワーク研究会正会員の所属する医療機関、およびその利用者を対象とした。調査は郵送によるアンケート方式で、2016年10月21日に発送し、2016年11月21日までに回収した。

調査票は、施設の運営状況等を調査する「施設用」と当該施設のプログラム利用者の状況等を調査する「個人用」に分かれている。いずれも回答は当該施設の医師またはスタッフに依頼した。「施設用」は、回答期間中の任意の1日の状況とした。「個人用」

は、2016年10月1日から7日までの7日間に、当該施設においてプログラムに登録されている患者、登録制度がない場合は同期間内にプログラムに参加した患者を対象とし、利用者1名につき1枚の記入を依頼した。

アンケートは201施設に送付し、「施設用」では166施設から回答が得られ、82.5%の回収率で前年より6.9%増加した。また「個人用」では、164施設から3,133人分の回答が得られ、81.6%の回収率であった。

3. 施設調査結果

A. リワーク施設情報

医療機関施設情報

対象施設のうち71件（42.8%）が病院、95件（57.2%）が診療所であり、昨年より約4.4%診療所の割合が増加した。病院の精神科病床数の平均は242床であり、昨年より43床増加した。そのうちストレスケア病棟の合計病床数は802床で平均病床数は12.0床であった（表1、2、3）。

プログラムを運営するにあたりデイケアやショートケアなどを組み合わせて実施している施設が多い。そこでプログラムを行う施設の診療報酬上の区分で最も多くの人数を算定している種類を聞いたところ、精神科デイケアが最も多く116施設（66.3%）、次いで精神科ショートケア32施設（19.3%）、精神科作業療法7施設（4.2%）、精神科デイナイトケア6施設（3.6%）、通院集団精神療法4施設（2.4%）であった（表

4-1)。最も多く算定しているプログラムの定員数は、10～19 人が 58 施設 (36.5%) で最も多く、20～29 人が 34 施設 (21.4%)、30～39 人が 25 施設 (15.7%) と続いた (表 4-2)。その他に算定している診療報酬上の区分は、精神科ショートケアが最も多く 101 施設 (60.8%)、次いで精神科デイケア 49 施設 (29.5%)、なし 28 施設 (16.9%)、精神科デイナイトケア 21 施設 (12.7%)、通院集団精神療法 10 施設 (6.0%) であった (表 4-3)。

また、精神科デイケア等全体においてプログラムを行っている割合をみると、平成 27 年度精神保健福祉資料 (厚生労働省)⁷⁾によると 6 月 1 か月間に 1 日以上実施した精神科デイケアの実施施設数は 1,426 施設のため、精神科デイケア全体のうち本調査でデイケアを実施している 116 施設の割合としては 8.1%であった。

プログラムを始めた年について最も多い年は、2011 年が 23 施設 (13.9%) であり、次いで 2013 年が 21 施設 (12.7%)、2007 年と 2012 年が 19 施設 (11.4%)、2009 年と 2010 年が 14 施設 (8.4%) であり、2007 年から 2015 年まで平均して 16 施設ほどが新たにプログラムを始めていたが、2016 年は大きく減少し 4 施設がプログラムを開始した (表 4-5)。

精神科デイケアと精神科ショートケアで実施している施設の規模は、大規模が 95 施設 (63.8%)、小規模が 54 施設 (36.2%) と昨年より大規模で実施している割合が

2%増加した (表 4-4)。

リワークプログラムの 1 週間あたりの開催日数は、5 日が最も多く 92 施設 (55.4%)、次いで 6 日が 30 施設 (18.1%)、4 日が 20 施設 (12.0%) であり、平均 4.7 日であった。また曜日では、金曜日が 9 割以上の施設で実施しており、月・火・水曜日が 8 割以上、土曜日は 3 割弱、日曜日に実施している施設は 0 施設であった (表 4-6)。

施設の定員数は、10～19 人が最も多く 58 施設 (36.5%) であり、20～29 人が 34 施設 (21.4%)、30～39 人が 25 施設 (15.7%)、40 人以上が 20 施設 (12.6%) と続き、平均 22.8 人であったが、50 人以上の定員も 15 施設 (9.4%) あった (表 4-2)。

また、定員数の合計は 159 施設 3,633 人であった。

リワーク以外の対象者受け入れについては、「受け入れていない」が 84 施設 (50.6%)、「受け入れている」が 79 施設 (47.6%) であり、昨年より 0.3% 「受け入れている」が減少した (表 4-7)。リワーク以外の対象者を受け入れている場合の対象について複数回答で聞いたところ、「社会適応技術の習得を目的とした発達障害者 (思春期、成人とも)」が 55 施設 (69.6%) と最も多く、次いで「社会生活機能改善を目的とした主に統合失調症患者」が 51 施設 (64.6%)、「居場所の提供を目的とした慢性期精神疾患患者」が 39 施設 (49.4%)、「社会適応技術の習得を目的としたパーソナリティ障害者」が 22 施設 (27.8%) であった。リワー

ク以外の対象者を受け入れている施設に対し、リワーク対象者とリワーク対象者以外の人数を比較したところ、リワーク対象者が多い施設が 43 施設 (54.4%)、リワーク対象者以外が多い施設が 31 施設 (44.3%) となり、対象が多い施設が 8 施設多かった (表 4-8, 9)。また、リワーク対象者とリワーク対象者以外の参加者が一緒に参加するプログラムの有無について聞いたところ、「あり」が 87 施設 (52.4%) あり、全体の約 5 割の施設がリワーク対象者と対象者以外の参加者が一緒に参加するプログラムを運営していた (表 4-10)。

リワーク施設において医療専門職の実習や研修の受け入れについて聞いたところ、受け入れが可能な施設は 100 施設 (60.2%)、不可能な施設は 58 施設 (34.9%) であった (表 4-11)。

B. リワークに関わるスタッフ情報

スタッフの作業

スタッフの作業のうち利用者全員分の個別記録を作成するために全スタッフが要する時間は、1 日あたり 60 分～89 分が最も多く 47 施設 (28.3%)、次いで 30 分～59 分と 120～179 分が 25 施設 (15.1%) であり、平均 126.3 分であった (表 5)。昨年と比較し、5.3 分増加した。利用者 1 名の診療計画を作成するために要する時間は、30 分～39 分が最も多く 49 施設 (29.5%)、次いで 10 分～19 分が 36 施設 (21.7%) であり、平均 41.9 分であった。診療計画の作成頻度

は 1 ヶ月あたり 1 回が最も多く 81 施設 (48.8%) であり、平均は 2.0 回であった (表 6-1, 2)。

毎日の定例の打ち合わせ・業務連絡以外のスタッフミーティングの実施頻度は、月 4 階が最も多く 43 施設 (25.9%) だった。1 カ月あたり平均 3.6 回、実施時間は平均 49.4 分であり、昨年より 8.1 分増加した (表 7-1, 2)。ケースカンファレンスの実施頻度は、1 カ月あたり 1 回が最も多く 50 施設 (30.1%)、次いで 4 回が 37 施設 (22.3%)、平均 2.2 回であった。実施時間は 60 分が最も多く 45 施設 (34.6%)、次いで 30 分が 36 施設 (27.7%)、平均 44.7 分であり、前回調査より 7.2 分減少した。また、ケースカンファレンスの参加者はスタッフのみが 40 施設 (30.8%)、医師も参加が 87 施設 (66.9%) であり、前回調査より医師参加の割合が 0.9% 減少した (表 8-1, 2, 3)。

スタッフの資格等

回答を得た 166 施設に 975 人のスタッフ (医師を除く) が勤務していた。昨年調査時よりも 143 人の増であり、1 施設当たりスタッフ数は 24 人が最も多く、最少は 2 人、平均 5.9 人であった (表 9)。スタッフの主な資格は、臨床心理士が最も多く、309 人 (31.7%) であった。次いで看護師 211 人 (21.6%)、精神保健福祉士 181 人 (18.5%)、作業療法士 126 人 (12.9%) であった (表 9-1)。前回調査と比較し、臨床心理士の割合が 1.4%、看護師が 0.9%、作業療法士が 1.1% 増加した。

また、主な資格以外に 451 人 (46.2%) が他の資格を有していた。主な資格以外の副資格としては、その他が 93 人と最も多く、次いで精神保健福祉士 39 人、産業カウンセラー 31 人、看護師 25 人、その他の心理職 23 人、キャリア・コンサルタント 19 人、であった (表 9-2)。

スタッフの背景

性別は、女性 644 人 (66.0%)、男性 311 人 (31.9%) であった。平均年齢は 38.7 才であり、昨年⁵⁾ とほぼ同じであった。主資格の経験年数は、平均 11.9 年であり、そのうちリワークの経験年数は平均 3.6 年であった (表 9-4, 9-8, 9-9)。

スタッフの勤務形態は、常勤が 714 人 (73.2%)、非常勤が 260 人 (26.6%) であった。非常勤スタッフの勤務日数は、1 週間あたり、平均 2.5 日であった。非常勤スタッフの 1 週間あたりの勤務時間の平均は 16.9 時間であった (表 9-5, 9-6, 9-7)。

企業での就労経験については、経験がないスタッフが、696 人 (71.3%)、産業保健スタッフ以外で就労経験がある者は 197 人 (20.2%)、産業保健スタッフとして就労経験のある者は 45 人 (4.6%) であった。産業保健スタッフ・それ以外の両方の就労経験がある者は 18 人 (1.8%) であった。(表 9-10)

C. リワークプログラムの利用開始について 利用開始時

プログラムの利用の決定方法は、主治医

による決定が 52 施設 (31.3%) と最も多く、次いで受け入れ会議で決定と担当医が決定がともに 40 施設 (24.1%)、院長が決定 32 施設 (19.3%) であった (表 10)。

リワークプログラム受け入れの条件

プログラム受け入れにあたり、条件を定めている施設は 151 施設 (91.0%)、定めていない 13 施設 (7.8%) であった (表 11)。条件を定めている施設のうち、本人の状態による条件を定めているところは 136 施設 (90.1%) であり、条件の内容は通所できる体力回復が 96 施設 (70.6%) で最も多く、次いで症状の安定が 93 施設 (68.4%) であった (表 12-1, 12-2)。

プログラム受け入れ時に心理テストを実施している施設は、81 施設 (53.6%) であった (表 13-1、別表 1)。

参加者の生活レベルによる条件については 59 施設 (39.1%) が定めており、条件の内容としては、「半日程度の外出が一定日」が 30 施設 (50.8%) で最も多く、日数としては週 3 日以上と定めた施設が 33.3% で最も多く、次いで週 2 日以上が 30.0%、週 5 日以上が 20.0% であった (表 14-1~4)。

受け入れの除外疾患を定めている施設は 111 施設 (73.5%)、定めていない 39 施設 (25.8%) であった。定めている場合、除外疾患は複数回答で物質依存が 74 件 (66.7%) で最も多く、次いで統合失調症 60 件 (54.1%)、パーソナリティ障害 58 件 (52.3%)、摂食障害 34 件 (30.6%)、気分障害以外すべて 22 件 (19.8%)、発達障害

18 件 (16.2%) であった(表 15-1, 15-2)。

勤労状態としては、条件を定めている施設が 113 施設 (74.8%) で、休職者以外では復職者や勤労中の者を受け入れている施設が 22 施設 (19.5%)、失職者を受け入れている施設が 41 施設 (36.3%) であった(表 16-1, 16-2)。

同一企業内の患者に関しては、条件を定めている施設が 65 施設 (43.0%) でそのうち参加者への意思確認が 33 施設 (50.8%)、同時期に行わないが 14 施設 (21.5%)、同時期でも実施するが 11 施設 (16.9%) であった。(表 17-1, 17-2)。

主治医の条件としては、定めているが 84 施設 (55.6%) で、そのうち主治医変更必須が 30 施設 (35.7%)、原則変更だが例外あり 15 施設 (17.9%)、リワーク医師受診必須が 24 施設 (28.6%) であった。(表 18-1, 18-2)。

年齢に関する条件では、定めているが 17 施設 (11.3%) で、そのうち年齢条件の下限は 15 歳以上、上限は 65 歳以下であった(表 19-1, 19-2)。学生の受け入れに関する条件は、定めているが 91 施設 (60.3%) で、受け入れないが 78 施設 (85.7%) であった(表 20-1, 20-2)。

受け入れ会議に関しては、受け入れ会議を必要が 49 施設 (32.5%)、特別な場合に受け入れ会議を開催が 51 施設 (33.8%) であり、7 割弱の施設が受け入れ会議を条件に定めていた(表 21)。

D. リワークプログラムの運用について

開始までの手続き

利用開始前の見学は、可能とする施設は 118 施設 (71.3%) でそのうち本人のみ可能が 36 施設 (21.7%)、家族も可能が 82 施設 (49.4%) であったが、48 施設 (28.9%) は見学不可であった(表 22)。

また、利用前の試験利用を認める施設は 61 施設 (36.7%) であった。試験利用可能な日数については 1~2 日未満が 23 施設 (37.7%) で最も多かった。リワーク開始までの待機期間は、「ある」施設が 16 施設 (9.6%) であり、平均 46.1 日であり、昨年より 5.9 日減少した(表 23-1, 23-2, 24-1, 24-2)。

利用規定を設けている施設は 151 施設 (91.0%) であり、昨年⁶⁾より 5.4%増加した。利用にあたり誓約書・同意書を取り交わす施設は 154 施設 (92.8%) であり昨年より 0.3%増加した(表 25, 26)。

利用開始後のステップ

参加者の利用の仕方について利用者と施設側の医師やスタッフが相談し決定しているが 98 施設 (59.0%)、施設がルールを制定しているが 66 施設 (39.8%)、本人の希望に任せるが 9 施設 (5.4%) であった(表 27)。

利用日数のステップの有無に関しては、段階的で開始条件を明確にしている 54 施設 (32.5%)、段階的だが移行の条件を定めていない施設は 69 施設 (41.6%)、ステップなし 37 施設 (22.3%)、であり、74.1%の施設でステップ形式を設定していた。ま

たステップ移行の決定は65.2%でスタッフが担当していた(表 28-1, 28-2)。

1 週間あたりの最低利用日数は、「定めている」が99施設(59.6%)であり、最低利用日数は「2日」が31施設(31.3%)、「3日」が29施設(29.3%)、「1日」が20施設(20.2%)、平均2.4日であった(表 29-1, 29-2)。

プログラム開始時の標準的な1週間のプログラムの延時間は、有効回答165施設において、平均11.8時間であった。また、終了時の標準的な1週間のプログラムの延時間は、有効回答166施設において、平均24.6時間であった(表 30-1, 30-2)。

評価

スタッフによる評価を実施している施設は、143施設(86.1%)であった。評価の方法としてスケール(尺度)を使用しているのは131施設(91.6%)であり、そのうち「標準化リワークプログラム評価シート」の使用は104施設(79.4%)が使用していた。また標準化リワークプログラム評価シートの評価項目について62施設(59.6%)が評価シートの項目のみを使用しており、38施設(36.5%)が任意に項目を追加して使用していた(表 31-1, 32-1, 32-2, 32-3)。

他院患者の受け入れ(表 33)

現在他院の患者をリワーク利用者として受け入れている施設は127施設(76.5%)であった(表 33)。他院患者を受け入れている施設の受け入れ決定は、自院で独自に受け入れを評価し決定している施設が97

施設(76.4%)であった(表 34)。また、受け入れ可の場合、主治医との連絡方法は、定期的に文書で行うが68施設(53.5%)、不定期的に文書で行うが36施設(28.3%)、連絡を取っていないが9施設(7.1%)であった。定期的・不定期的に文書で連絡を取っている104施設のうち、リワーク専用の文書の使用が67施設(64.4%)、診療情報提供書を使用している34施設(32.7%)であった(表 35, 36)。

主治医との連絡に文書を送付する頻度は、1か月に1回が最も多く60.4%であり、その際に診療報酬を請求している割合は2割強であった(表 37, 38)。

通常プログラム以外の運用

プログラムを終了した利用者に対するプログラムは、リワークの一環として実施する復職者向けフォロープログラムが95施設(57.2%)で最も多く、次いでスタッフ等の面談などによる診療以外の個別対応が92施設(55.4%)、医療機関も関与するリワークプログラム修了者と現在参加者との交流会が44施設(26.5%)、医療機関の関与しない自主イベントが19施設(11.4%)であった(表 39)。また、家族向けプログラムは25施設(15.1%)で行われており、その費用について無料が14施設(56.0%)、保険適用5施設(20.0%)、保険外6施設(24.0%)であった(表 40-1, 40-2)。

中止・脱落

施設が利用の継続を中止する場合の基準は、症状の悪化97施設(58.4%)、施設の

設定したルール違反 24 施設(14.5%)、症状の悪化以外の理由による欠席理由 23 施設(13.9%)、他のメンバーへの迷惑行為 14 施設(8.4%)であった(表 41)。

利用中止の決定者は、主治医が 59 施設(35.5%)、リワーク施設管理医師が 55 施設(33.1%)、リワーク施設スタッフが 19 施設(11.4%)であった(表 42)。中止後の再利用は、「再利用あり」が 144 施設(86.7%)であり、「はじめから」が 43 施設(29.9%)、「途中からも可」が 84 施設(58.3%)であった(表 43-1, 43-2)。

利用者側の要因によりプログラムから脱落する場合、その原因について上位 1 位と 2 位を聞いたところ、1 位の原因は症状悪化 91 件(54.8%)、モチベーション低下 27 件(16.3%)、退職する意思を固めたため 9 件(5.4%)の順であり、2 位とした原因はモチベーション低下 65 件(39.2%)、症状悪化 30 件(18.1%)、退職する意思を固めたため 15 件(9.0%)であった(表 44-1, 44-2)。

プログラムの利用終了時

最長利用期間の設定に関しては、開始時に定めていない施設は 99 施設(59.6%)、定めている 66 施設(39.8%)であった。最も多い期間設定は 12 か月で 32 施設(48.5%)であり平均 10.4 か月であった。ただし 6 か月以内に設定しているところも 19 施設(28.8%)あった(表 45)。

利用終了の決定条件に関し上位 2 つを聞いたところ、受け入れ先の条件(復職・休

職満了など)によるが最も多く 64 件(66.7%)、次いで期限を設定 33 件(34.4%)、判定会議での結果 16 件(16.7%)、出席日数・出席率 18 件(18.8%)、実施した評価の結果 16 件(16.7%)、利用者の意見 14 件(14.6%)、であった(表 47)。

復職時に勤務先企業と行う連絡・調整について複数回答で聞いたところ、産業医・産業保健スタッフに書面で実施する場合は最も多く 60 件(62.5%)で前回調査時より 6.2%ほど減少、次いで人事労務担当者に書面で実施 52 件(54.2%)、人事労務担当者に診察で実施 33 件(34.4%)、産業医・産業保健スタッフに診察で実施 26 件(27.1%)、産業医・産業保健スタッフに訪問にて実施 21 件(21.9%)であった(表 48)。

復職後のフォローと再利用

復職後のフォロー体制について複数回答で聞いたところ、外来にて診察が最も多く 132 件(79.5%)、次いでフォローアッププログラム参加 86 件(51.8%)、心理カウンセリングの実施が 49 施設(29.5%)、スタッフが定期的に連絡・面談が 43 件(25.9%)、その他 26 件(15.7%)であった。その他は交流会、電話やメールによる相談対応、休職者向けや既存のリワークプログラムなど参加可能なプログラムに参加するなどの回答が多かった(表 49)。

また、復職後に再休職に至った後の再利用については 151 施設(91.0%)が再利用可能で、そのうち 142 施設(94.0%)が初

回利用と同じプログラムを利用するとのことであった（表 50-1, 50-2）。

E. 実施しているプログラムの内容に関する情報

プログラムの実施形態（表 51）

161 施設より 1,683 プログラムの回答が得られた。1 施設あたりの平均プログラム数は 10.4 であり、昨年調査⁶⁾より 0.5 増加した。

回答された 1,683 プログラムについて集計した。それぞれのプログラムに関し、実施している形態から①個人プログラム ②特定の心理プログラム ③教育プログラム ④集団プログラム ⑤その他のプログラム、とした 5 つの区分より最もあてはまる一つを選択してもらった。

①個人プログラムは、他の参加者との交流を主な目的とせず、文字や数字、文章を扱う机上における作業を実施する中で、主に集中力・作業能力・実践力の確認や向上を目的として実施しているプログラムの区分とした。その結果、257 プログラム（15.3%）が該当した。これは昨年実施した調査より 1.4%減少した。

②特定の心理プログラムは、認知行動療法、SST、対人関係療法、グループカウンセリング、サイコドラマなどの特定の心理療法を実施するプログラムの区分と定義したが、383 プログラム（22.8%）が該当し、昨年度調査⁵⁾より 0.5%増加した。

③教育プログラムは、疾病理解、症状の

自己管理（セルフモニタリングとコントロール）を主目的とし、講師がいてテキストを使用するような講義形式で実施しているプログラムの区分と定義したところ、223 プログラム（13.3%）該当し、昨年度調査⁵⁾より 0.1%減少した。

④集団プログラムは、協同作業、役割分担、対人スキル向上などを主な目的として実施し、集団で行う意図が明らかなプログラムの区分とした。最も多い 431 プログラム（25.6%）が該当し、昨年度調査より 2.2%減少した。

⑤その他のプログラムは、運動、リラクセーション、個人面談、創造、動機付け等、上記の①～④のいずれにも該当しないプログラムの区分と定義し、381 プログラム（22.6%）が該当し、昨年度調査と比較して 2.6%の増加であった（表 51）。

プログラムの目的区分（表 52）

プログラムの目的については、8 つの目的区分（1 症状自己管理、2 コミュニケーション、3 自己洞察、4 集中力、5 モチベーション、6 リラクセーション、7 基礎体力、8 感情表現）からプログラムごとに 2 つまでの区分を選択してもらった。

その結果、1,678 プログラムより 2,954 の目的区分が選択された。プログラム全体における目的区分の割合は、セルフモニタリングや自己洞察を目的とする「3 自己洞察」が 703 プログラム（41.9%）と最も多く、次いでコミュニケーションスキルの向上や対人交流を目的とする「2 コミュニケーシ

ョン」が 567 プログラム (33.8%)、自己の体調や症状の自己管理を目的とする「1 症状自己管理」が 484 プログラム (28.8%)、作業能率や作業能力の向上を目的とする「4 集中力」が 354 プログラム (21.1%)、リラックス法や心身のバランスを目的とする「6 リラクゼーション」が 252 プログラム (15.0%)、運動不足解消や体力向上を目的とする「7 基礎体力」が 238 プログラム (14.2%)、自主性や動機付けを目的とする「5 モチベーション」が 189 プログラム (11.3%)、非言語的表現や情操面を目的とする「8 感情表現」が 167 プログラム (10.0%) であった。

昨年度調査と比較すると順位にほとんど変動はなかった (表 52)。

プログラムの実施形態ごとの目的、実施期間と時間 (表 53, 54)

プログラムの実施の形態と目的との関連性を見るために、実施形態ごとの目的区分の選択度、実施時期、実施時間を調べた。

週当たりの実施時間について導入期 (1~4 週)、初期 (3~12 週)、中期 (開始 7~20 週)、後期 (開始 17 週~)、終了期 (終了 4 週間以内) の 5 区分で調査した。施設ごとにプログラムの期間に差があるためいづれの期間でも回答できるような期間設定としている。

実施形態「①個人プログラム」では、最も多く選択された目的区分として「4 集中力」が 211 プログラム (82.1%) であり、次いで「3 自己洞察」が 67 プログラム

(26.1%)、「5 モチベーション」が 59 プログラム (23.0%)、であった。

「①個人プログラム」の実施時期は、導入期が 173 プログラム (67.3%)、初期は 206 プログラム (80.2%)、中期が 208 プログラム (80.9%)、後期が 206 プログラム (80.2%)、終了期が 178 プログラム (69.3%) であり、他実施形態と比較し各時期を通してほとんどの施設で実施していた。それぞれの 1 週間あたりの実施時間は導入期が 165.5 分、初期が 206.2 分、中期が 226.1 分、後期が 234.3 分、終了期が 239.5 分であった。プログラムの実施時間はプログラム後期に向けて増加しており、他の実施形態と比較して実施時間は約 2 倍であった。

「②特定の心理プログラム」では、最も多く選択された目的区分として「3 自己洞察」が 283 プログラム (74.1%) であり、次いで「1 症状自己管理」が 173 プログラム (45.3%)、「2 コミュニケーション」が 146 プログラム (38.2%) であった。

「②特定の心理プログラム」の実施時期は、導入期が 162 プログラム (42.3%)、初期が 244 プログラム (63.7%)、中期が 321 プログラム (83.8%)、後期が 300 プログラム (78.3%)、終了期が 251 プログラム (65.5%) であり、1 週間あたりの実施時間は導入期が 109.7 分、初期が 120.0 分、中期が 125.8 分、後期が 115.8 分、終了期が 116.0 分であった。導入期に実施する施設は 4 割強と少ないがプログラム中盤では

8割の施設で時間も長く実施されていた。

「③教育プログラム」において最も多く選択された目的区分は「1 症状自己管理」で185プログラム(83.3%)、次いで「3 自己洞察」が126プログラム(56.8%)であった。

「③教育プログラム」の実施時期は、導入期が130プログラム(58.3%)、初期が171プログラム(76.7%)、中期が174プログラム(78.0%)、後期が147プログラム(65.9%)、終了期が125プログラム(56.1%)であり、1週間あたりの実施時間は導入期が94.1分、初期が99.8分、中期が106.5分、後期が97.7分、終了期が93.1分であった。実施時期の初期と中期において実施している施設が多く、プログラム前半の疾病教育として位置づけられていると考えられる。

「④集団プログラム」において最も多く選択された目的区分は、「2 コミュニケーション」が299プログラム(69.5%)であり、次いで「3 自己洞察」が142プログラム(33.0%)、「3 集中力」が72プログラム(16.7%)であった。

「④集団プログラム」の実施時期は、導入期が217プログラム(50.3%)、初期が278プログラム(64.5%)、中期が354プログラム(82.1%)、後期が349プログラム(81.0%)、終了期が314プログラム(72.9%)であり、1週間あたりの実施時間は導入期が109.6分、初期が122.3分、中期が135.6分、後期が128.3分、終了期が123.9分であ

った。

「⑤その他のプログラム」で最も多く選択された目的区分は、「7 基礎体力156プログラム(44.1%)」、「6 リラクゼーション」で153プログラム(40.3%)であった。

「⑤その他のプログラム」の実施時期は、導入期が283プログラム(74.3%)、初期が326プログラム(85.6%)、中期が326プログラム(85.6%)、後期が292プログラム(76.6%)、終了期が278プログラム(73.0%)であり、1週間あたりの実施時間は導入期が89.6分、初期が94.7分、中期が97.6分、後期が98.8分、終了期が90.0分であった。プログラムの内容に幅があるため目的は分散しているが、プログラムの実施時期からみて時期による実施時間の変動が少ない区分であった(表53,54)。

医療機関ごとのリワークプログラムの実施の実態 (表55)

今回の調査では161施設より1,683プログラムの有効回答があったが、実施形態ごとにみると、「①個人プログラム」に該当するプログラムを実施している医療機関は135施設(83.9%)で昨年度調査時の割合より1.7%減少していた。「②特定の心理プログラム」に該当するプログラムを実施している医療機関は139施設(86.3%)で昨年度調査⁵⁾時の割合と同一であった。「③教育プログラム」に該当するプログラムを実施している医療機関は126施設(78.3%)で昨年度調査時の割合より0.9%増加していた。「④集団プログラム」に該当するプロ

プログラムを実施している医療機関は 146 施設 (90.7%)で昨年度調査時の割合より 1.1%減少していた。「⑤その他のプログラム」に該当するプログラムを実施している医療機関は 128 施設 (79.5%)で昨年度調査時の割合より 5.5%増加していた。

プログラム 1 単位でみるのではなく 5 つの実施形態に該当するプログラム全体で実施時間をみたところ、「①個人プログラム」、「④集団プログラム」、「③特定の心理プログラム」、「③教育プログラム」、「⑤その他のプログラム」の順に多く、最も少ない「③教育プログラム」と最も長い「①個人プログラム」を比較すると約 3 倍の実施時間の差があった。後期、終了期になると「①個人プログラム」、「②特定の心理プログラム」、「④集団プログラム」を実施する割合が増加していた。

医療機関ごとに実施しているプログラムの実施形態を集計してみると、5 区分の実施形態のうち、5 区分すべてに該当するプログラムを行っている医療機関は 83 施設 (51.6%)であり、4 実施区分に該当している医療機関は 41 施設 (25.5%)で全体の 8 割弱を占め、昨年度調査時の割合と比較すると 3.1%増加した。また、3 実施区分に該当している医療機関は 26 施設 (16.1%)、2 実施区分に該当している医療機関は 6 施設 (3.7%)、1 実施区分に該当している医療機関は 5 施設 (3.1%)であった (表 55)。

標準的な像としては、実施形態として 4 ないし 5 つの実施区分を網羅するプログラ

ムを 10 種類ほど揃え、週 5 日実施する中で、時間としては個人プログラム、プログラム数と時間としては集団プログラムについて重点的に配分したスケジュールで実施していると言えるだろう。

F. 登録者の利用状況に関する調査

平成 28 年 10 月 1 日から 7 日の 7 日間にわたり、リワークプログラムを実施している施設において、その日にデイケア、ショートケア、デイナイトケア、ナイトケア、精神科作業療法、集団通院精神療法、または自費参加によるリワークプログラムに登録されている方、および登録制度がない場合はこの期間中に参加した方、について調査を実施し 161 施設から 3,134 人の登録者等の調査票を回収した。

利用者背景

利用者の性別は、男性 2,302 人 (73.5%)、女性 829 人 (26.5%)であった (表 56)。平均年齢は男性 41.8 歳、女性 37.7 歳、全体 40.7 歳であり、最年少は 17 歳、最年長は 83 歳であった (表 57)。

就労状況は休業中 2,203 人 (71.5%)で前回調査より 1.1%増加、失職中 374 人 (12.1%)で前回より 1.5%減少、就労中 453 人 (14.7%)で 2.2%増加、未就労 52 人 (1.7%)で 0.1%増加であった。婚姻状況は未婚 1,706 人 (54.5%)、既婚 1,422 人 (45.5%)であった (表 61, 62)。

休業の状態に関しては、本調査における“休業”の定義を精神疾患等の理由により

一定期間以上会社を休んでいる状態とし、休業期間に関しては、1カ月を30日に換算し、利用者から得られる情報をもとに記入を依頼した。平均休業回数は全体で2.1回であった。総休業期間は平均600.8日で前回調査より15.9日増加した(表72,73)。

利用状況は、初回利用者が2,581人(83.0%)、再利用者527人(17.0%)であった(表66)。1週間当たりの利用予定日数は、5日利用が最も多く1,323人(42.6%)で平均3.5日であった(表65)。主治医が自院である利用者は2,013人(64.4%)、他院が1,113人(35.6%)であった(表63)。今回のプログラムへの参加開始日は、調査年度である2016年が2,325人(74.7%)で最も多く、その前年2015年は523人(16.8%)、2014年は131人(4.2%)であった。2016年参加者を月別にみると直近3ヶ月で45.4%が開始していた(表67,68)

診断別の利用者数(表58)

利用者のICD-10による診断の内訳は、F3気分(感情)障害が2,424人(78.1%)、F4神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害424人(13.7%)、F2統合失調症、統合失調症型障害および妄想性障害112人(3.6%)、F8心理的発達の障害72人(2.3%)、F6成人のパーソナリティおよび行動の障害23人(0.7%)、F1精神作用物質使用による精神および行動の障害20人(0.6%)、F9小児期および青年期に通常発達する行動及び情緒の障害16人(0.5%)、F7精神遅滞[知的障害]6人(0.2%)、F0

症状性を含む器質性精神障害4人(0.1%)、F5生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群4人(0.1%)であった。また、DSM-5による「双極Ⅱ型障害」の可能性がある利用者は855人(27.5%)であり(表59)、前回調査より4.9%減少した。また、DSM-5による「自閉症スペクトラム障害(ASD)や注意欠陥・多動性障害(AD/HD)の可能性のある利用者は792人(25.5%)で(表60)、前回調査より3.3%増加した。

平成27年度の精神保健福祉資料⁷⁾によると6月の1日間のデイケア等の利用者数は48,926人であったため、精神科デイケア等全体に占めるリワークの割合は6.4%であった。

利用者の診断について前回調査と割合を比較すると、減少はF3気分(感情)障害-0.4%、F1精神作用物質使用による精神および行動の障害とF2統合失調症、統合失調症型障害および妄想性障害が-0.3%、F0症状性を含む器質性精神障害-0.2%、F5生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群とF8心理的発達の障害は-0.1%、であり、増加は、F4神経症性障害+0.6%、F6成人のパーソナリティおよび行動の障害+0.5%の増加であった。F7精神遅滞[知的障害]とF9小児期および青年期に通常発達する行動及び情緒の障害は前回調査と同じであった。

また疾患分類について精神科デイケア等全体と比較したところ、平成27年度の精神保健福祉資料⁷⁾によると6月の1日間のデ

イケア等利用者の疾患として最も多い F2 統合失調症、統合失調症型障害および妄想性障害の割合は 60.1%であり 3.6%のリワークの約 17 倍多く、次に多い F3 気分(感情)障害は 17.1%のため 78.1%のリワークの 1/5 ほどであった。F4 神経症性障害は 4.7%のため 13.7%のリワークの 1/3 であった。

G. まとめ

1. うつ病リワーク研究会所属の施設と利用者を対象とし、リワーク（復職支援）プログラムの実施状況を調査したところ、診療報酬区分としては精神科デイケアを中心に精神科ショートケアを組み合わせ運営している医療機関が多いことが判明した。
2. 166 施設で合計 976 名のスタッフが勤務し昨年より 144 人増加した。臨床心理士が最も多く全体の 3 割を占め、看護師が 2 割強、精神保健福祉士が 2 割弱、作業療法士が 1 割強であった。
3. 復職時の勤務先企業の産業医・産業保健スタッフに対する連絡・調整は、書面が最も多く 6 割、診察時が 3 割弱、訪問が 2 割強を占めていた。人事労務担当者に対しての連絡・調整は、書面が 5 割強、診察が 3 割強であった。
4. 開始時の標準的な 1 週間のプログラムのべ時間は、平均 11.8 時間であった。また終了時の標準的な 1 週間のプログラムの延時間は、平均 24.6 時間であった。
5. 復職後のフォローは外来診療が最も多

く 8 割であった。また復職後のフォローアッププログラムを実施している施設は 5 割であった。

6. プログラムの内容に関し実施形態により 5 区分に分類したところ「集団プログラム」が 3 割弱、「その他のプログラム」と「特定の心理プログラム」が 2 割強であった。医療機関ごとにみると 5 区分すべてに該当するプログラムを実施している医療機関は 51.6%、4 区分に該当している医療機関は 25.5%であり、昨年より 3.1%増加した。
7. 今回の調査では、平成 28 年 10 月の 7 日間に登録されていた利用者 3,134 人について個別調査も実施した。休業回数は平均 2.1 回、総休業期間は平均 600 日で昨年より 16 日増加し、昨年同様長期間の休職状態にある利用者が多いことが判明した。また、DSM-5 による双極 II 型障害の可能性がある利用者は 27%で昨年と同じであった。また DSM-5 による「自閉症スペクトラム障害 (ASD) や注意欠陥・多動性障害 (AD/HD)」の可能性のある利用者について聞いたところ 26%であり昨年より 4%増加した。近年の傾向として双極性障害や発達障害の可能性を持つ利用者が多く、難治性の気分障害が対象となっていることが今年度も改めて浮き彫りとなった。

H. 結論

これまで 9 年間にわたり基礎調査を行っ

てきた。回収率は前年より向上し 83%で目標の 80%を上回った。

プログラムに関しては集団プログラムを中心とするプログラム内容の充実やフォローアッププログラムの定着が示された。

外部の主治医や企業の産業医・産業保健スタッフや人事労務担当者との連携方法の割合はほぼ前年と同じであり連携について定着していることが示された。

利用者に対する大規模な調査を行ったが、複数回休職し、また、休職期間も長い利用者がプログラムを利用している現実が明らかとなり、双極Ⅱ型障害を疑う症例も 3 割、「発達障害」を疑う症例も 2 割いることも示され、今後の課題が浮き彫りされた。リワークプログラムを行う施設は全国的に増加傾向にあるが、社会に広まるにつれて今後は従事するスタッフと実施されるプログラムの更なる質の向上が求められることが予想される。

I. 健康危険情報

なし

J. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

K. 知的財産権の出願・登録状況

なし

L. 文献

1) 五十嵐良雄、リワークプログラムの実

施状況に関する調査、厚生労働科学研究こころの健康科学研究事業(リワークプログラムを中心とするうつ病の早期発見から職場復帰に至る包括的治療法に関する研究) 平成 20 年度総括分担研究報告書: 43-91、2009.

2) 五十嵐良雄、全国におけるリワークプログラムの実施状況に関する研究、厚生労働科学研究こころの健康科学研究事業(リワークプログラムを中心とするうつ病の早期発見から職場復帰に至る包括的治療法に関する研究) 平成 21 年度総括分担研究報告書: 85-100、2010.

3) 五十嵐良雄、全国におけるリワークプログラムの実施状況と利用者に関する調査研究、厚生労働科学研究障害者対策総合研究事業(リワークプログラムを中心とするうつ病の早期発見から職場復帰に至る包括的治療法に関する研究) 平成 22 年度総括分担研究報告書: 49-76、2011.

4) 五十嵐良雄、リワークプログラムの実施状況と利用者に関する調査研究、厚生労働省障害者対策総合研究事業(うつ病患者に対する復職支援体制の確立・うつ病患者に対する社会復帰プログラムに関する研究) 平成 23 年度総括分担研究報告書: 47-70、2012.

5) 五十嵐良雄、リワークプログラムの実施状況と利用者に関する調査研究、平成 24 年度厚生労働科学研究費補助金(障害者対策総合研究事業 精神障害分野) うつ病患者に対する復職支援体制の確立 うつ病

患者に対する社会復帰プログラムに関する研究, 117-156, 2013.

6) 五十嵐良雄, リワークプログラムの実施状況と利用者に関する調査研究, 平成 25 年度厚生労働科学研究費補助金 (障害者対策総合研究事業 精神障害分野) うつ病患者に対する復職支援体制の確立 うつ病患者に対する社会復帰プログラムに関する研究, 77-117, 2014.

7) 平成 27 年度精神保健福祉資料 ; 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 精神保健計画研究部「改革ビジョン研究ホームページ」事務局

A. リワーク施設情報

質問1 リワーク施設の属する医療機関について該当する箇所1つに○を記入して下さい。

表1

n= 166

	件数	比率
病院	71	(42.8%)
診療所	95	(57.2%)
合計	166	(100.0%)

質問2 併設する精神科入院施設がある場合、精神科病棟は何床でしょうか。(無ければ0を記入)

(質問1で「病院」と答えた方)

表2

n= 65

	件数	比率
0床	3	(4.6%)
1～49床	4	(6.2%)
50～99床	8	(12.3%)
100～149床	4	(6.2%)
150～199床	10	(15.4%)
200～249床	8	(12.3%)
250～299床	7	(10.8%)
300～349床	4	(6.2%)
350～399床	3	(4.6%)
400床以上	13	(20.0%)
未回答	1	(1.5%)
合計	65	(100.0%)
平均	241.8	

質問3 精神科病棟のうち、ストレスケア病棟は何床でしょうか。(無ければ0を記入)
(質問2で床数が「1床以上」の施設)

表3

n= 61

	件数	比率
0床	40	(65.6%)
1～19床	4	(6.6%)
20～29床	4	(6.6%)
30～39床	5	(8.2%)
40～49床	3	(4.9%)
50床以上	3	(4.9%)
未回答	2	(3.3%)
合計	61	(100.0%)
平均	12.0	

質問4-1 貴リワーク施設で最も多くの人数を診療報酬上算定しているのはどれですか。

表4-1

n= 166

	件数	比率
デイケア	110	(66.3%)
ショートケア	32	(19.3%)
デイナイトケア	6	(3.6%)
ナイトケア	0	(0.0%)
精神科作業療法	7	(4.2%)
通院集団精神療法	4	(2.4%)
その他	0	(0.0%)
未回答	7	(4.2%)
合計	166	(100.0%)

質問4-2 最も多く診療報酬上算定しているリワークプログラムの定員数を記入して下さい。
 (質問4-1で答えた方)

表4-2

n= 159

	件数	比率
1～9人	17	(10.7%)
10～19人	58	(36.5%)
20～29人	34	(21.4%)
30～39人	25	(15.7%)
40人以上	20	(12.6%)
未回答	5	(3.1%)
合計	159	(100.0%)
平均	22.8	

質問4-3 質問4-1の回答以外に診療報酬上算定しているのはどれですか。
 (複数回答)

表4-3

n= 166

	件数	比率
なし	28	(16.9%)
デイケア	49	(29.5%)
ショートケア	101	(60.8%)
デイナイトケア	21	(12.7%)
ナイトケア	8	(4.8%)
精神科作業療法	8	(4.8%)
通院集団精神療法	10	(6.0%)
その他	2	(1.2%)
未回答	11	(6.6%)

質問4-3 質問4-1の回答以外に診療報酬上算定しているのはどれですか。

(その他)

- 精神科継続外来支援・指導料
- フォローアッププログラムは実費にて(¥ 1500)

質問4-4 デイケア、ショートケアを選択した場合、該当する規模を記入して下さい。
(質問4-1又は質問4-3で「デイケア」又は「ショートケア」と答えた方)

表4-4 n= 149

	件数	比率
大規模	95	(63.8%)
小規模	54	(36.2%)
合計	149	(100.0%)

質問4-5 リワークプログラムを始めた年(西暦)を記入して下さい。

表4-5 n= 166

	件数	比率
1997年	1	(0.6%)
2002年	1	(0.6%)
2004年	2	(1.2%)
2005年	4	(2.4%)
2006年	5	(3.0%)
2007年	19	(11.4%)
2008年	12	(7.2%)
2009年	14	(8.4%)
2010年	14	(8.4%)
2011年	23	(13.9%)
2012年	19	(11.4%)
2013年	21	(12.7%)
2014年	12	(7.2%)
2015年	13	(7.8%)
2016年	4	(2.4%)
未回答	2	(1.2%)
合計	166	(100.0%)

質問4-6 リワークプログラムの1週間の開催日を記入して下さい。
 (複数回答)

表4-6

n= 166

	件数	比率
月	146	(88.0%)
火	147	(88.6%)
水	149	(89.8%)
木	131	(78.9%)
金	153	(92.2%)
土	47	(28.3%)
日	0	(0.0%)

	件数	比率
週0日	2	(1.2%)
週1日	2	(1.2%)
週2日	9	(5.4%)
週3日	11	(6.6%)
週4日	20	(12.0%)
週5日	92	(55.4%)
週6日	30	(18.1%)
週7日	0	(0.0%)

質問4-7 リワーク以外の対象者受入をしていますか。

表4-7

n= 166

	件数	比率
している	79	(47.6%)
していない	84	(50.6%)
未回答	3	(1.8%)
合計	166	(100.0%)

質問4-8 あてはまる対象をすべて選んで下さい。
(質問4-7で「している」と答えた方)

n= 79

	件数	比率
社会生活機能改善を目的とした主に統合失調症患者	51	(64.6%)
居場所の提供を目的とした慢性期精神疾患患者	39	(49.4%)
各種依存症からの回復のための利用者	18	(22.8%)
社会適応技術の習得を目的とした発達障害者(思春期、成人とも)	55	(69.6%)
社会適応技術の習得を目的とした高次機能障害者	15	(19.0%)
社会適応技術の習得を目的としたパーソナリティ障害者	22	(27.8%)
生活支援を目的とした高齢者	12	(15.2%)
生活支援を目的とした介護、認知症患者	4	(5.1%)
未回答	4	(5.1%)

質問4-9 リワーク対象者とリワーク対象者以外のどちらの人数が多いですか。
(質問4-7で「している」と答えた方)

表4-9 n= 79

	件数	比率
リワーク対象者	43	(54.4%)
リワーク対象者以外	35	(44.3%)
未回答	1	(1.3%)
合計	79	(100.0%)

質問4-10 リワーク対象者とリワーク対象者以外の参加者に対し、一緒に実施するプログラムはありますか。

表4-10 n= 166

	件数	比率
ある	87	(52.4%)
ない	49	(29.5%)
未回答	30	(18.1%)
合計	166	(100.0%)

質問4-11 リワーク施設において医療専門職養成学校等の実習や研修を受け入れますか。

表4-11 n= 166

	件数	比率
受け入れ可	100	(60.2%)
受け入れ不可	58	(34.9%)
未回答	8	(4.8%)
合計	166	(100.0%)

B. リワークに関わるスタッフ情報

質問5 全スタッフが1日の利用者全員分の個別記録を作成するために要する時間(分)を記入して下さい。

(1日当たりの所要時間)

(分/日)

表5

n= 166

	件数	比率
30分未満	6	(3.6%)
30分以上 60分未満	25	(15.1%)
60分以上 90分未満	47	(28.3%)
90分以上 120分未満	15	(9.0%)
120分以上 180分未満	25	(15.1%)
180分以上 240分未満	14	(8.4%)
240分以上 360分未満	19	(11.4%)
360分以上	7	(4.2%)
未回答	8	(4.8%)
合計	166	(100.0%)
平均	126.3	

質問6 利用者1名の診療計画を作成するために要する時間(分)と作成回数(頻度)を記入して下さい。

(1名当たりの所要時間)

表6-1

n= 166

	件数	比率
1分以上 10分未満	4	(2.4%)
10分以上 20分未満	36	(21.7%)
20分以上 30分未満	17	(10.2%)
30分以上 40分未満	49	(29.5%)
40分以上 60分未満	7	(4.2%)
60分以上 90分未満	24	(14.5%)
90分以上 100分未満	6	(3.6%)
100分以上	10	(6.0%)
未回答	13	(7.8%)
合計	166	(100.0%)
平均	41.9	

(1ヶ月当たりの作成回数)

(回/月)

表6-2

n= 166

	件数	比率
0回	1	(0.6%)
1回未満	21	(12.7%)
1回以上 2回未満	81	(48.8%)
2回以上 3回未満	19	(11.4%)
3回	4	(2.4%)
4回	13	(7.8%)
5回	5	(3.0%)
6回以上	6	(3.6%)
未回答	16	(9.6%)
合計	166	(100.0%)
平均	2.0	

質問7 毎日定例の打ち合わせ・業務連絡以外のスタッフミーティングに関し、実施頻度と実施時間をお答えください。

実施頻度(1ヶ月間の実施回数、実施していない場合は0)
(回/月)

表7-1

n= 166

	件数	比率
0回	25	(15.1%)
0.5回	1	(0.6%)
1回	40	(24.1%)
1.5回	2	(1.2%)
2回	23	(13.9%)
2.5回	1	(0.6%)
3回	2	(1.2%)
4回	43	(25.9%)
4.5回	3	(1.8%)
5回	1	(0.6%)
8回	7	(4.2%)
10回	1	(0.6%)
11回以上	13	(7.8%)
未回答	4	(2.4%)
合計	166	(100.0%)
平均	3.6	

(1回当たりの所要時間:分)
(実施回数を「0回」と答えた方を除く)

表7-2

n= 141

	件数	比率
10分	8	(5.7%)
15分	6	(4.3%)
20分	6	(4.3%)
30分	32	(22.7%)
35分	2	(1.4%)
40分	3	(2.1%)
45分	7	(5.0%)
60分	46	(32.6%)
61分以上 90分未満	4	(2.8%)
90分以上 120分未満	15	(10.6%)
120分以上 180分未満	6	(4.3%)
180分以上	3	(2.1%)
未回答	3	(2.1%)
合計	141	(100.0%)
平均	49.4	

質問8 ケースカンファレンスに関し、実施頻度と実施時間、参加者内訳をお答えください。

実施頻度(1ヶ月間の実施回数、実施していない場合は0)
(回/月)

表8-1

n= 166

	件数	比率
0回	36	(21.7%)
0.1回以上 1回未満	5	(3.0%)
1回	50	(30.1%)
2回	15	(9.0%)
3回	5	(3.0%)
4回	37	(22.3%)
4.5回	2	(1.2%)
5回	1	(0.6%)
6回以上	6	(3.6%)
未回答	9	(5.4%)
合計	166	(100.0%)
平均	2.2	

(実施回数を「0回」と答えた方を除く)
(1回当たりの所要時間:分)

表8-2

n= 130

	件数	比率
5分	1	(0.8%)
10分以上 20分未満	10	(7.7%)
20分以上 30分未満	8	(6.2%)
30分以上 40分未満	36	(27.7%)
40分以上 50分未満	6	(4.6%)
50分以上 60分未満	1	(0.8%)
60分	45	(34.6%)
61分以上	16	(12.3%)
未回答	7	(5.4%)
合計	130	(100.0%)
平均	44.7	

(実施回数を「0回」と答えた方を除く)
(参加者内訳)

表8-3

n= 130

	件数	比率
スタッフのみ	40	(30.8%)
医師も参加	87	(66.9%)
未回答	3	(2.3%)
合計	130	(100.0%)

質問9 リワークに関わる全スタッフ数

表9

n= 166

	件数	比率
2人	13	(7.8%)
3人	25	(15.1%)
4人	28	(16.9%)
5人	23	(13.9%)
6人	22	(13.3%)
7人	18	(10.8%)
8人	11	(6.6%)
9人	8	(4.8%)
10人	7	(4.2%)
11人	2	(1.2%)
12人	3	(1.8%)
13人	2	(1.2%)
15人	1	(0.6%)
18人	1	(0.6%)
19人	1	(0.6%)
24人	1	(0.6%)
合計	166	(100.0%)
平均	5.9	

質問9-1 リワークに関わる全スタッフに関し、取得している主な資格に関し、該当する番号をひとつ記入して下さい。

表9-1

n= 976

	件数	比率
看護師	211	(21.6%)
保健師	15	(1.5%)
精神保健福祉士	181	(18.5%)
作業療法士	126	(12.9%)
理学療法士	3	(0.3%)
臨床心理士	309	(31.7%)
その他の心理職	42	(4.3%)
産業カウンセラー	8	(0.8%)
キャリア・コンサルタント	4	(0.4%)
その他	76	(7.8%)
未回答	1	(0.1%)
合計	976	(100.0%)

質問9-2 リワークに関わる全スタッフに関し、取得している主な資格以外の資格に関し、該当する番号すべて記入して下さい。

票9-2

n= 976

	件数	比率
なし	525	(53.8%)
看護師	25	(2.6%)
保健師	15	(1.5%)
精神保健福祉士	39	(4.0%)
作業療法士	9	(0.9%)
理学療法士	4	(0.4%)
臨床心理士	10	(1.0%)
その他の心理職	23	(2.4%)
産業カウンセラー	31	(3.2%)
キャリア・コンサルタント	19	(1.9%)
その他	113	(11.6%)
未回答	220	(22.5%)

質問9-3 リワークに関わる全スタッフの性別

票9-3

n= 976

	件数	比率
男性	311	(31.9%)
女性	644	(66.0%)
未回答	21	(2.2%)
合計	976	(100.0%)

質問9-4 リワークに関わる全スタッフの2014年10月1日現在の年齢

票9-4

n= 976

	件数	比率
24才以下	29	(3.0%)
25～29才	156	(16.0%)
30～34才	187	(19.2%)
35～39才	177	(18.1%)
40～44才	147	(15.1%)
45～49才	100	(10.2%)
50～54才	82	(8.4%)
55～59才	47	(4.8%)
60～64才	13	(1.3%)
65～69才	11	(1.1%)
70才以上	4	(0.4%)
未回答	23	(2.4%)
合計	976	(100.0%)
平均	38.7	

質問9-5 リワークに関わる全スタッフの勤務形態

票9-5

n= 976

	件数	比率
常勤	714	(73.2%)
非常勤	260	(26.6%)
未回答	2	(0.2%)
合計	976	(100.0%)

質問9-6 リワークに関わる全スタッフに関し、非常勤の場合の勤務日数
(質問9-5で「非常勤」と答えた方)

勤務日数(日/週)

票9-6

n= 260

	件数	比率
1日未満	14	(5.4%)
1日	89	(34.2%)
1.5日	6	(2.3%)
2日	42	(16.2%)
2.5日	1	(0.4%)
3日	37	(14.2%)
3.5日	3	(1.2%)
4日	41	(15.8%)
5日	19	(7.3%)
6日以上	2	(0.8%)
未回答	6	(2.3%)
合計	260	(100.0%)
平均	2.5	

質問9-7 リワークに関わる全スタッフに関し、非常勤の場合の勤務時間

(質問9-5で「非常勤」と答えた方)

勤務時間(時間/週)

n= 260

	件数	比率
5時間未満	45	(17.3%)
5～9時間	74	(28.5%)
10～14時間	19	(7.3%)
15～19時間	24	(9.2%)
20～24時間	28	(10.8%)
25～29時間	9	(3.5%)
30～34時間	26	(10.0%)
35～39時間	11	(4.2%)
40時間以上	14	(5.4%)
未回答	10	(3.8%)
合計	260	(100.0%)
平均	16.9	

質問9-8 リワークに関わる全スタッフに関し、主な資格・職種としての経験年数

票9-8

n= 976

	件数	比率
1年未満	4	(0.4%)
1年以上～2年未満	50	(5.1%)
2年以上～3年未満	48	(4.9%)
3年以上～4年未満	51	(5.2%)
4年以上～5年未満	47	(4.8%)
5年以上～6年未満	59	(6.0%)
6年以上～7年未満	49	(5.0%)
7年以上～8年未満	59	(6.0%)
8年以上～9年未満	42	(4.3%)
9年以上～10年未満	36	(3.7%)
10年以上～15年未満	192	(19.7%)
15年以上～20年未満	107	(11.0%)
20年以上～25年未満	66	(6.8%)
25年以上～30年未満	49	(5.0%)
30年以上	59	(6.0%)
未回答	58	(5.9%)
合計	976	(100.0%)
平均	11.9	

質問9-9 リワークに関わる全スタッフに関し、リワーク・プログラムの経験年数

票9-9

n= 976

	件数	比率
1年未満	1	(0.1%)
1年以上～2年未満	220	(22.5%)
2年以上～3年未満	181	(18.5%)
3年以上～4年未満	159	(16.3%)
4年以上～5年未満	78	(8.0%)
5年以上～6年未満	113	(11.6%)
6年以上～7年未満	63	(6.5%)
7年以上～8年未満	38	(3.9%)
8年以上～9年未満	64	(6.6%)
9年以上～10年未満	15	(1.5%)
10年以上	22	(2.3%)
未回答	22	(2.3%)
合計	976	(100.0%)
平均	3.6	

質問9-10 リワークに関わる全スタッフに関し、企業での就労経験

票9-10

n= 976

	件数	比率
無し	696	(71.3%)
産業保健スタッフとして就労	45	(4.6%)
産業保健スタッフ以外	197	(20.2%)
産業保健スタッフ、産業保健スタッフ以外の両方	18	(1.8%)
未回答	20	(2.0%)
合計	976	(100.0%)

C. リワーク・プログラムの利用開始について

質問10 利用の最終の決定について最も適するもの1つに○を記入して下さい。

表10

n= 166

	件数	比率
主治医が決める	52	(31.3%)
院長などの管理者が決める	32	(19.3%)
担当医が決める	40	(24.1%)
会議で決める	40	(24.1%)
その他	2	(1.2%)
合計	166	(100.0%)

質問10 利用の最終の決定について最も適するもの1つに○を記入して下さい。

(その他)

- 当院主治医が決める
- 当院医師が決める

質問11 プログラムへの受け入れの条件は定めていますか。

表11 n= 166

	件数	比率
定めている	151	(91.0%)
定めていない	13	(7.8%)
未回答	2	(1.2%)
合計	166	(100.0%)

質問12 プログラム受け入れにおいて本人の状態による条件を定めていますか。

(質問11で「定めている」と答えた方)

表12-1 n= 151

	件数	比率
定めていない	14	(9.3%)
定めている	136	(90.1%)
未回答	1	(0.7%)
合計	151	(100.0%)

定めている場合は該当するもの上位3つまでに○を記入

表12-2 n= 136

	件数	比率
規則的な睡眠リズムが回復している	66	(48.5%)
精神症状・身体症状が安定している	93	(68.4%)
集中力・理解力が回復している	15	(11.0%)
通所できる体力が回復している	96	(70.6%)
通所・復職への意欲が高い	54	(39.7%)
その他	12	(8.8%)

質問12 プログラム受け入れにおいて本人の状態による条件を定めています
(質問11で「定めている」と答えた方)

定めている場合は該当するもの上位3つまでに○を記入
(その他)

- 初めから週に3日以上来所できる
- HAM-D 10点以下
- 3日/週通所できる、集団活動ができる
- 週3日午前中の活動が2週間継続できること
- ルールが守れること
- 禁酒
- 通所への意欲もある
- 図書館通いが毎日出来ている。
- HAM-D7点以下
- 職業準備性評価シート
- 生活リズムが整っている

質問13 プログラム受け入れにおいて心理テストを実施していますか。
(質問11で「定めている」と答えた方)

表13

n= 151

	件数	比率
している	81	(53.6%)
していない	68	(45.0%)
未回答	2	(1.3%)
合計	151	(100.0%)

質問13 プログラム受け入れにおいて心理テストを実施していますか。

(質問11で「定めている」と答えた方)
(種類と基準)

- CES-D ただし、点数は参考とするが、受入れ可否の基準にはしていない
- BDI、HAM-D
- WAIS、Rorschach、PFstudy、TEG
- SDS、BSDS、SASS、AQ-J、LSAS-J、WCST、HAM-D、BDI-II、DAI-10
- BDI-II
- SDS、BDI
- ブルドン抹消検査、バウムテスト、TEG、SDS、BOI-II、SASS
- WAIS-III、MINI、バウムテスト、ブルドン
- HAM-R17、AQ-J、SE、SASS、BDI-II
- CES-D、STAI
- BECK、TEG II、バウム、ブルドン
- MMPI、内田クレペリン精神検査
- ロールシャッハ、NEO・TEG(開始時)
- HAM-D(開始時と終了時)、SDS(月1回)
- CES-D
- P-Fスタディ、POMS
- BDI-II、SASS、AQ
- POMS、TEG II、ストレスユーピングインベントリー、自我態度スケール、基準は定めていない
- BDI
- HAM-D
- SDS、(BDI-II)
- CES-D
- WAIS
- クレペリン、バウム、TEG、SCI
- POMS
- SDS、WHODAS、20、
- WAIS-III、MMPI
- WAIS III、ロールシャッハ(主治医が必要と判断した場合)
- WAIS-III、AQ-J、SASS、CES-D
- SASS、Beck、SCI、FMI、QOL
- WAIS
- BDI-II、QIDS-J、基準はなし
- WAIS-III・SDS・POMS・LSAS-J・TEG-II
- バウムテスト、TEG
- SDS、経過観察のため
- SDS、AQ、CAARS、TEG、バウム・テスト、SF-36、BSDS
- WAIS、TEG
- バウムテスト、クレペリン、CES-D
- ロールシャッハテスト、バウムテスト、WAIS-III、SDS、BDI-II、GAF、ハミルトン
- BDI-II、HAM-D
- SDS、SASS
- WAIS、Baum、TEG
- 内田クレペリン検査、TEG II、SDS、SASS
- CES-D、WCST
- SDS、三宅式、WCST、CPT
- SDS→神経症領域なら可
- SASS、CES-D※導入の基準としては使用していない
- WAIS、Kor.
- MMPI、WAIS
- SDS、STAI、AQ-J
- CES-D内田クレペリン精神作業検査
- SDS、BSCP

- TEG、AQ、JART、WAISⅢ、SASS、BDI、QIDS-J、MMPI、P-Fスタディ、TCI、内田クレペリン
- HAM-Dを実施するが、結果によって参加の可否に影響しない
- SDS参考として
- CES-D、ブルドン抹消検査、 Wisconsinカードソーティングテスト、
- WAIS-Ⅲ知能検査・CES・SASS・内田クレペリン・TEG
- WAIS-Ⅲ、TEG-Ⅱ 他の情報と総合的に判断
- GAF、HAM-D、SDS
- SDS、POMS、ブルドン、TEG
- WAIS-Ⅲ、(全員)
- クレペリン、SDS、POMS
- 基本性格テスト HAM-D、YMRS
- WAIS-Ⅲ、HAM-D、TEG実施結果は受け入れ可否には影響しません。
- SDS、バウムテスト、L-SAS
- うつ評価尺度(SDS、BDI)
- 内田クレペリン精神検査、バウムテスト
- HAM-D7点以下
- TEG-Ⅱ
- YG性格検査
- HAM-D、WAIS-Ⅲ、MINI、BOI、SASS、バウムテスト、ブルドン抹消検査
- CES-D
- WAIS-Ⅲ、内田クレペリン検査、SASS BSI-Ⅱ
- TEG
- MADRS(≤12) WAIS LSAS-J P-Fスタディ ブルドン
- WAIS-Ⅲ・ロールシャッハ・SCT・YG・BDI-Ⅱ

質問14 プログラム受け入れにおいて本人の生活レベルによる条件を定めていますか。
 (質問11で「定めている」と答えた方)

表14-1

n= 151

	件数	比率
定めていない	91	(60.3%)
定めている	59	(39.1%)
未回答	1	(0.7%)
合計	151	(100.0%)

定めている場合は該当するもの上位2つまでに○を記入

表14-2

n= 59

	件数	比率
半日程度外出できる日が一定日ある	30	(50.8%)
1日図書館通いできる日が一定日ある	9	(15.3%)
身だしなみが整ってきた	11	(18.6%)
食生活のリズムが安定している	7	(11.9%)
その他	19	(32.2%)
未回答	5	(8.5%)

(半日程度外出できる日が一定日ある)

表14-3

n= 30

	件数	比率
週1日以上	1	(3.3%)
週2日以上	9	(30.0%)
週3日以上	10	(33.3%)
週4日以上	1	(3.3%)
週5日以上	6	(20.0%)
未回答	3	(10.0%)
合計	30	(100.0%)

(1日図書館通いできる日が一定日ある)

表14-4

n= 9

	件数	比率
週2日以上	1	(11.1%)
週3日以上	4	(44.4%)
週4日以上	1	(11.1%)
週5日以上	2	(22.2%)
未回答	1	(11.1%)
合計	9	(100.0%)

質問14 プログラム受け入れにおいて本人の生活レベルによる条件を定めていますか。

(質問11で「定めている」と答えた方)

定めている場合は該当するもの上位2つまでに○を記入
(その他)

- 4日／週以上の通所が可能
- 週3日以上デイケアに通うことができる
- 3／W通所可能な方
- 睡眠覚醒リズムがある程度整っており、週3日参加可能
- 週1日以上曜日固定で通所ができる
- リワークを受ける意志、意欲、体力の確認
- 生活リズム
- 毎日の外出1時間程度
- 週3日午前中の活動が2週間以上継続できる
- 朝定刻に起きて、日中も活動できるか
- 定期的に通院可能である
- 1～4がある程度できていたら
- 日中の活動を含め生活リズムが概ね整っている
- 昼夜逆転をしていない
- 日中、起きていることができる
- 緊張する場所に週4～5日外出できる
- 週5日通所できる体力、生活リズムが整っている
- プログラムに間に合う時刻に起床できている
- 4／W以上通所できる

質問15 プログラム受け入れにおいて除外疾患の条件を定めていますか。
 (質問11で「定めている」と答えた方)

表15-1

n= 151

	件数	比率
定めていない	39	(25.8%)
定めている	111	(73.5%)
未回答	1	(0.7%)
合計	151	(100.0%)

定めている場合は該当する疾患すべてに○を記入

表15-2

n= 111

	件数	比率
気分障害以外すべて	22	(19.8%)
双極性障害	9	(8.1%)
アルコール依存症などの物質依存	74	(66.7%)
パーソナリティ障害	58	(52.3%)
発達障害	18	(16.2%)
摂食障害	34	(30.6%)
パニック障害	6	(5.4%)
統合失調症	60	(54.1%)
その他	5	(4.5%)
未回答	1	(0.9%)

質問15 プログラム受け入れにおいて除外疾患の条件を定めていますか。
 (質問11で「定めている」と答えた方)

定めている場合は該当する疾患すべてに○を記入
 (その他)

- 気分障害と併発している場合8以外であれば受け入れることあり。
- 衝動性や人に危害を加える可能性の有無
- 双極Ⅰ型
- 2. 3. 7. 8の病名でくることがあり、適応能力可能な状態か判断
- 適応障害

質問16 プログラム受け入れにおいて勤労状態の条件を定めていますか。
 (質問11で「定めている」と答えた方)

表16-1

n= 151

	件数	比率
定めていない	37	(24.5%)
定めている	113	(74.8%)
未回答	1	(0.7%)
合計	151	(100.0%)

定めている場合は該当するものすべてに○を記入

表16-2

n= 113

	件数	比率
休職者を受け入れる	112	(99.1%)
失職者を受け入れる	41	(36.3%)
復職者、勤務中の者を受け入れる	22	(19.5%)
その他	8	(7.1%)

質問16 プログラム受け入れにおいて勤労状態の条件を定めていますか。
 (質問11で「定めている」と答えた方)

定めている場合は該当するものすべてに○を記入
 (その他)

- 失職者は離職している期間により相談
- 復職後の時活動務者
- 就職未経験者も受け入れる
- 離職者は期間により要相談
- 求職者も要相談とした。(失職後の)
- 失職者のうち、離職後1年以内の者
- 離職後1年以内
- 離職者

質問17 プログラム受け入れにおいて同一企業内の条件を定めていますか。
 (質問11で「定めている」と答えた方)

表17-1

n= 151

	件数	比率
定めていない	84	(55.6%)
定めている	65	(43.0%)
未回答	2	(1.3%)
合計	151	(100.0%)

定めている場合は該当するもの1つに○を記入

表17-2

n= 65

同一企業の場合	件数	比率
同一企業内の社員は同時期に行わない	14	(21.5%)
同一企業内の社員で同時期でも実施する	11	(16.9%)
参加者の意思を確認し参加を決める	33	(50.8%)
その他	6	(9.2%)
未回答	1	(1.5%)
合計	65	(100.0%)

質問17 プログラム受け入れにおいて同一企業内の条件を定めていますか。
 (質問11で「定めている」と答えた方)

定めている場合は該当するもの1つに○を記入
 (その他)

- 職場に参加しても良いか確認 利害関係がありそうなら同時期は避ける
- 主治医に確認
- 原則行わないが、患者の状況・状態等によって判断
- 異なる課・部署の場合のみ受け入れ可
- 同一企業内で異なる部署の場合は受け入れる
- 会社の規定に合わせる

質問18 他院患者のプログラム受け入れにおいて主治医の条件を定めていますか。
 (質問11で「定めている」と答えた方)

表18-1

n= 151

	件数	比率
定めていない	64	(42.4%)
定めている	84	(55.6%)
未回答	3	(2.0%)
合計	151	(100.0%)

定めている場合は該当するもの1つに○を記入

表18-2

n= 84

主治医について	件数	比率
主治医変更が必須	30	(35.7%)
原則的に主治医変更、ただし例外あり	15	(17.9%)
利用者の意思に任せる	12	(14.3%)
主治医変更しないがリワーク施設医師の定期受診が必須	24	(28.6%)
その他	2	(2.4%)
未回答	1	(1.2%)
合計	84	(100.0%)

質問18 他院患者のプログラム受け入れにおいて主治医の条件を定めています
 (質問11で「定めている」と答えた方)

定めている場合は該当するもの1つに○を記入
 (その他)

- 初診が必要(主治医変更なし、開始前に1度受診)
- 主治医変更しないがリワーク担当医の初診が必要

質問19 プログラム受け入れにおいて年齢の条件を定めていますか。
 (質問11で「定めている」と答えた方)

表19-1 n= 151

	件数	比率
定めていない	131	(86.8%)
定めている	17	(11.3%)
未回答	3	(2.0%)
合計	151	(100.0%)

定めている場合はその年齢を記入して下さい。

表19-2 n= 17

	件数	比率
15才以上 65才以下	1	(5.9%)
16才以上 64才以下	1	(5.9%)
18才以上 60才以下	2	(11.8%)
18才以上 65才以下	2	(11.8%)
20才以上 55才以下	1	(5.9%)
20才以上 59才以下	1	(5.9%)
20才以上 60才以下	2	(11.8%)
20才以上 65才以下	1	(5.9%)
21才以上	1	(5.9%)
55才以下	1	(5.9%)
60才以下	1	(5.9%)
65才以下	2	(11.8%)
不明	1	(5.9%)
合計	17	(100.0%)

質問20 プログラム受け入れにおいて学生の条件を定めていますか。
 (質問11で「定めている」と答えた方)

表20-1

n= 151

	件数	比率
定めていない	57	(37.7%)
定めている	91	(60.3%)
未回答	3	(2.0%)
合計	151	(100.0%)

定めている場合は該当するものに○を記入

表20-2

n= 91

	件数	比率
学生を受け入れている	9	(9.9%)
学生を受け入れていない	78	(85.7%)
その他	3	(3.3%)
未回答	1	(1.1%)
合計	91	(100.0%)

質問20 プログラム受け入れにおいて学生の条件を定めていますか。
 (質問11で「定めている」と答えた方)

定めている場合は該当するものに○を記入
 (その他)

- きたことがない
- 状況に応じて判断
- 個別に検討

質問21 プログラム受け入れにおいて受け入れ会議を条件に定め
 (質問11で「定めている」と答えた方)

表21

n= 151

	件数	比率
定めていない	48	(31.8%)
受け入れ会議が必要	49	(32.5%)
特別な場合に受け入れ会議を開催する	51	(33.8%)
未回答	3	(2.0%)
合計	151	(100.0%)

D. リワーク・プログラムの運用について

質問22 利用開始前の見学に関し、該当するものに○を記入して下さい。

表22

n= 166

	件数	比率
本人のみ可	36	(21.7%)
家族も可	82	(49.4%)
見学は不可	48	(28.9%)
合計	166	(100.0%)

質問23 利用前の試験利用(継続して参加するかを判断するために単発的に利用すること)に関し、該当するものに○を記入して下さい。

表23-1

n= 166

	件数	比率
試験利用は可	61	(36.7%)
試験利用は不可	104	(62.7%)
未回答	1	(0.6%)
合計	166	(100.0%)

試験利用可能な日数

表23-2

n= 61

	件数	比率
1日～2日未満	23	(37.7%)
2日～3日未満	5	(8.2%)
3日～5日未満	8	(13.1%)
5日～10日未満	6	(9.8%)
10日以上	7	(11.5%)
未回答	12	(19.7%)
合計	61	(100.0%)

質問24 現時点におけるリワークプログラム開始までの待機期間(参加基準を満たしているが定員がいっぱいなため待機している期間)の有無に関し、該当するものに○を記入して下さい。

表24-1

n= 166

	件数	比率
ある	16	(9.6%)
ない	150	(90.4%)
合計	166	(100.0%)

待機期間がある場合の日数

表24-2

n= 16

	件数	比率
10.5日	1	(6.3%)
20日	1	(6.3%)
30日	4	(25.0%)
45日	3	(18.8%)
60日	4	(25.0%)
120日	1	(6.3%)
未回答	2	(12.5%)
合計	16	(100.0%)

質問25 プログラムの参加にあたり、利用規定はありますか。

表25

n= 166

	件数	比率
ある	151	(91.0%)
ない	14	(8.4%)
未回答	1	(0.6%)
合計	166	(100.0%)

質問26 プログラム参加にあたり、誓約書や同意書を取り交わしますか。

表26

n= 166

	件数	比率
取り交わす	154	(92.8%)
取り交わさない	12	(7.2%)
未回答	0	(0.0%)
合計	166	(100.0%)

質問27 参加者やプログラムの利用の仕方(参加する曜日や日数、時間、期間、プログラムなど)に関し、該当するものに○を記入して下さい。

(複数回答)

表27

n= 166

	件数	比率
本人の希望に任せる	9	(5.4%)
施設がルールを制定している	66	(39.8%)
利用者と施設側の医師やスタッフが相談し決定	98	(59.0%)
その他	1	(0.6%)

質問27 参加者やプログラムの利用の仕方(参加する曜日や日数、時間、期間、プログラムなど)に関し、該当するものに○を記入して下さい。

(その他)

○ 必要に応じて参加者施設側医師スタッフで話し

質問28 プログラムの利用に関し、ステップ形式(回復状態や所定のルールにより参加日やプログラム内容について数段階のレベルを設定・運用している)を設定していますか。

表28-1

n= 166

	件数	比率
ステップなし	37	(22.3%)
段階的でステップ移行の条件が明確	54	(32.5%)
段階的だがステップ移行の条件は定めず	69	(41.6%)
その他	5	(3.0%)
未回答	1	(0.6%)
合計	166	(100.0%)

移行決定者は？

表28-2

n= 69

	件数	比率
スタッフ	45	(65.2%)
施設側医師	13	(18.8%)
他院主治医	1	(1.4%)
参加者	3	(4.3%)
その他	2	(2.9%)
未回答	5	(7.2%)
合計	69	(100.0%)

質問28 プログラムの利用に関し、ステップ形式(回復状態や所定のルールにより参加日やプログラム内容について数段階のレベルを設定・運用している)を設定していますか。

(その他)

- 特に規定はないが参加日数の増減によるステップ設定はあ
- リワーク開始後のステップはないが、開始前までは3日/W心理コースや精神科デイケアの通所でリズムを調整している。
- 1ヶ月目→2ヶ月目→3ヶ月目と通所日数増

質問29 プログラム開始時の1週間あたりの最低利用日数が決められている場合はその日数を記入して下さい。また、参加者自身の希望により決定する場合は、認められている最低利用日数を記入して下さい。

表29-1

n= 166

	件数	比率
最低利用日数を決めている	99	(59.6%)
最低利用日数は決めていない	67	(40.4%)
合計	166	(100.0%)

最低利用日数
(日/週)

表29-2

n= 99

	件数	比率
0.5日	2	(2.0%)
1日	20	(20.2%)
1.5日	2	(2.0%)
2日	31	(31.3%)
3日	29	(29.3%)
4日	6	(6.1%)
5日	9	(9.1%)
合計	99	(100.0%)
平均	2.4	

質問30 開始時と終了時それぞれにおける標準的な1週間のプログラム参加のべ時間を記入してください。

【開始時】
(時間/週)

表30-1

n= 166

	件数	比率
5時間未満	23	(13.9%)
5時間～10時間未満	60	(36.1%)
10時間～15時間未満	27	(16.3%)
15時間～20時間未満	38	(22.9%)
20時間～30時間未満	6	(3.6%)
30時間以上	11	(6.6%)
未回答	1	(0.6%)
合計	166	(100.0%)
平均	11.8	

【終了時】
(時間/週)

表30-2

n= 166

	件数	比率
5時間未満	6	(3.6%)
5時間～10時間未満	13	(7.8%)
10時間～15時間未満	12	(7.2%)
15時間～20時間未満	19	(11.4%)
20時間～30時間未満	22	(13.3%)
30時間～40時間未満	86	(51.8%)
40時間以上	8	(4.8%)
合計	166	(100.0%)
平均	24.6	

質問31 スタッフによる参加者の状態に対する個別評価の実施状況に関し、該当するものに○を記入して下さい。

表31-1

n= 166

	件数	比率
している	143	(86.1%)
していない	19	(11.4%)
未回答	4	(2.4%)
合計	166	(100.0%)

質問32 「標準化リワークプログラム評価シート」などのスケールを使用していますか。
 (質問31で「している」と答えた方)

表32-1

n= 143

	件数	比率
使用している	131	(91.6%)
スケールを使用していない	12	(8.4%)
未回答	0	(0.0%)
合計	143	(100.0%)

「標準化リワークプログラム評価シート」を使用していますか。
 (スケールを「使用している」と答えた方)

表32-2

n= 131

	件数	比率
使用している	104	(79.4%)
使用していない	19	(14.5%)
未回答	8	(6.1%)
合計	131	(100.0%)

「標準化リワークプログラム評価シート」の評価項目について
 (「標準化リワークプログラム評価シート」を「使用している」と答えた方)

表32-3

n= 104

	件数	比率
評価シートの項目のみ使用	62	(59.6%)
項目を任意に追加して使用	38	(36.5%)
未回答	4	(3.8%)
合計	104	(100.0%)

質問32 「標準化リワークプログラム評価シート」などのスケールを使用していますか

(質問32で「スケールを使用していない」と答えた方)
(具体的評価方法)

- 観察による評価
- あらたに作成したもの。
- 復職準備チェックシート
- 当院規定条件をもとに評価
- 生活記録表、各種プログラムへの参加状況など、スタッフ間で話し合い評価
- 独自に作ったシートを利用
- 1週間に1回ミーティングを開催し話し合いにて決定。
- 独自の作成したものを使用
- 心理検査、生活表、休職に至る経緯の自己分析等を評価する材料にしている
- 出席率、心理検査、行動観察をもとに総合的に評価

質問32 「標準化リワークプログラム評価シート」以外のスケールについて

(質問32で「使用している」と答えた方)
(種類と実施時期)

- BOI. SASS. 月の初めに月1回実施。
- 開始時: AQ. ATQ. DAS. SDS 中間(週3日→週4日): ATQ. DAS. SDS. 終了時: ATQ. DAS. SDS
- 開始時と終了時 SDS. ATQ. DAS
- 当院が独自で作成した評価シート. 毎月実施
- 3種類. 実施時期は個別の状況により決定する
- 開始時. 終了時.
- 標準化リワークプログラム評価シートの一部改変
- SDS. SASS. BDI-Ⅱ. LSAS-J. WCST. HAM-D. DAI-10. TAC
- TEMPS. DAS. AQ-J. IPSM STAI. HAM-D. YMRS
- 当院独自の評価シート 導入～概ね1ヶ月単位で行い、最終評価のまとめを実施
- 標準化リワークプログラム評価シートの項目を抜粋したものを月に1回主治医にお送りしている
- BDI. EFI. SASS→1回/月 クレペリン→3ヶ月に1回
- 月1回 SDS. STA1. TEG. D-CAT
- BDI-Ⅱ. SASS. リハビリ行動記録表)→1/2W回
- 当院オリジナルの評価表(1ヵ月ごと)
- 当DC独自の物も、2ヶ月目終了時(中間). 4ヶ月目終了時(最終)
- POMS 開始時. 終了時
- SDS. SASS. エゴグラム(6因子) STEP移行期(1ヶ月ごと)に実施.
- 内田クレペリン(復職間近)
- SDS. WHODAS2. 0. 導入時 終了時 長期の際3ヶ月毎に実施
- 復職準備評価シート(PPRS)23項目のみ毎月第1金曜日に実施
- 月終わり
- BDI. 1/2W
- SDS. BDI-Ⅱ…1ヵ月毎 クレペリン…必要時
- BDI-2: バウムテスト: }2・5週目・復職前・状態変化時 TEG: 不定期
- 職場復帰準備性評価シート プログラム開始時. 各段階移行時
- 進捗状況を当院独自のスケールを使い2ヶ月毎に評価しています。
- プログラム別意識調査: 参加2ヶ月後くらい
- CES-D 月1回. 出席日数
- TEG II. SDS.
- 当院独自シート、3ヵ月目、卒業前
- BDI. SASS
- オリジナル(・対人交流 ・生活習慣 ・作業能力 ・症状 等の項目あり。
- ブルドン検査 復職決定前
- 「標準化リワークプログラム評価シート」を簡略化したものを毎月必で作成
- SDS(月1回) SASS. LASMI(初期及び終了期)
- 生活リズム 復職準備性などを月に1回
- 当院作制のもの 月2回
- 復職準備性評価シート
- SASS(1回/月) 内田クレペリン精神検査(開始時/終了時)
- BDI SASS. LSAS-J FFMQ
- QIDS-J. SDS. HAM-D
- QIDS. -1/W BDI. -前後
- SDS. バリウムテスト. L-SAS
- ①開始時 TCI. BSCP. BDI-Ⅱ. SASS AQ SF36 健康と労働パフォーマンスに関するアンケート 職業性ストレス簡易調査 ②ステップアップ時…BDI-Ⅱ. SASS ③復職時…BSCP. BDI-Ⅱ. SASS. SF-36
- CES-D STAI 疲労度計. 活動度計
- 疾病理解と心理的成長 1/1.5回
- ハミルトン. 開始時. 終了時.
- 1/4W・当DC作成 評価スケール. 実施
- DANAS(毎日). PHQ9(1/週)

質問33 リワークプログラムに他院患者を受け入れていますか。

表33

n= 166

	件数	比率
受け入れ可	127	(76.5%)
受け入れ不可	39	(23.5%)
未回答	0	(0.0%)
合計	166	(100.0%)

質問34 受入れ機関としての開始にあたっての決定プロセスについて、最も該当するもの1つに○を記入して下さい。

(質問33で「受け入れ可」と答えた方)

表34

n= 127

	件数	比率
他院の主治医が参加決定	22	(17.3%)
自院で独自に受け入れを評価し決定	97	(76.4%)
その他	6	(4.7%)
未回答	2	(1.6%)
合計	127	(100.0%)

質問34 受入れ機関としての開始にあたっての決定プロセスについて、最も該当するもの1つに○を記入して下さい。

(質問33で「受け入れ可」と答えた方)

(その他)

- 主治医の処方・依頼のもと、自院で評価し決定。
- 主治医許可のもと、当院医師とリワークスタッフが評価し決定する
- 他院からの紹介により、利用可が出た人を受入許可する。
- 他院主治医からの情報提供を基に当院医師が面接(診察)を行ない、最終可否判断をする。
- 1→2後に受け入れ
- 他院主治医同意の上、院長が評価

質問35 主治医との連携方法について、最も該当するもの1つに○を記入して下さい
(質問33で「受け入れ可」と答えた方)

表35

n= 127

	件数	比率
定期的に文書で連絡	68	(53.5%)
不定期に文書で連絡	36	(28.3%)
電話・口頭により連絡	6	(4.7%)
連絡を取っていない	9	(7.1%)
その他	6	(4.7%)
未回答	2	(1.6%)
合計	127	(100.0%)

質問35 主治医との連絡方法について、最も該当するもの1つに○を記入して下さい。

(質問33で「受け入れ可」と答えた方)
(その他)

- 開始時・終了時その他必要時に文書又は口頭で連絡
- 現在、他院からの利用者がいない
- 必要時。終了時。
- 本人又は会社を通して連絡

質問36 主治医との連絡の際に使用する文書に関し、該当するものに○を記入して下さい。

(質問35で「定期的に文書で連絡」、「不定期に文書で連絡」と答えた方)

表36

n= 104

	件数	比率
医師同士の診療情報提供書	34	(32.7%)
リワーク専用の文書	67	(64.4%)
その他	2	(1.9%)
未回答	1	(1.0%)
合計	104	(100.0%)

質問36 主治医との連絡の際に使用する文書に関し、最も該当するものに○を記入して下さい。

(質問35で「定期的に文書で連絡」、「不定期に文書で連絡」と答えた方)

(その他)

- 医師が書く診療情報提供書の中にスタッフがA4 1～2枚つけている
- 支援計画、評価表

質問37 全ての参加対象者について主治医との連絡に文書を送付する頻度はどのくらいですか。
 (質問36で「医師同士の診療情報提供書」、「リワーク専用の文書」と答えた方)
 (回/1ヶ月あたり)

表37

n= 101

	件数	比率
1回未満	28	(27.7%)
1回以上 2回未満	61	(60.4%)
2回	1	(1.0%)
3回	1	(1.0%)
5回	1	(1.0%)
15回	1	(1.0%)
未回答	8	(7.9%)
合計	101	(100.0%)

質問38 主治医との連絡に文書を使用するにあたり診療報酬を請求していますか。
 (質問36で「医師同士の診療情報提供書」、「リワーク専用の文書」と答えた方)

表38

n= 101

	件数	比率
請求している	21	(20.8%)
請求していない	76	(75.2%)
その他	2	(2.0%)
未回答	2	(2.0%)
合計	101	(100.0%)

質問38 主治医との連絡に文書を使用するにあたり診療報酬を請求していますか。
 (質問36で「医師同士の診療情報提供書」、「リワーク専用の文書」と答えた方)
 (その他)

- 自費
- 紹介状の場合はしている

質問39 リワークプログラムを終了した利用者に対するプログラム等に関し、該当するものすべてに○を記入して下さい。

表39

n= 166

	件数	比率
リワークの一環として復職者向けフォローアッププログラム	95	(57.2%)
医療機関も関与するリワークプログラムの終了者と現在参加者との交流会	44	(26.5%)
OB・OG・同窓会的な医療機関の関与しない自主イベント	19	(11.4%)
スタッフ等の面談などによる診療以外の個別対応	92	(55.4%)
なし	18	(10.8%)
その他	9	(5.4%)
未回答	1	(0.6%)

質問39 リワークプログラムを終了した利用者に対するプログラム等に関し、該当するものすべてに○を記入して下さい。

(その他)

- フォローアップのメール
- CBGT
- 同窓会的なスタッフの関与するイベント
- Tel相談やメールによるサポート
- 手紙によるフォローアップ
- ④と似ていますが、「個人カウンセリング」
- 通常のデイケアプログラムでフォロー
- 現在のリワークプログラムへの不定期参加
- 医療機関の関与するOB・OG会

質問40 リワークプログラムとは別に家族を対象としたプログラムに関し、該当するものに○を記入して下さい。

表40-1

n= 166

	件数	比率
家族プログラムがある	25	(15.1%)
家族プログラムはない	141	(84.9%)
合計	166	(100.0%)

参加費用について該当するものに○を記入して下さい。
 (「家族プログラムがある」と答えた方)

表40-2

n= 25

	件数	比率
無料	14	(56.0%)
保険外	6	(24.0%)
保険適用	5	(20.0%)
合計	25	(100.0%)

質問41 利用中止基準(利用中止とは施設側の判断として通所中の参加者の利用継続を停止すること)に関し、最も該当する理由1つに○を記入して下さい。

表41

n= 166

	件数	比率
病状の悪化以外の理由による欠席回数	23	(13.9%)
症状の悪化	97	(58.4%)
他のメンバーへの迷惑行為	14	(8.4%)
施設の設定したルール違反	24	(14.5%)
その他	7	(4.2%)
未回答	1	(0.6%)
合計	166	(100.0%)

質問41 利用中止基準(利用中止とは施設側の判断として通所中の参加者の利用継続を停止すること)に関し、最も該当する理由1つに○を記入して下さい。

(その他)

- 会社や主治医などとう以外で発生した欠席回数
- 欠席回数
- 症状の改善がまだ見られない場合
- ゴールの変更など、施設利用目的との不一致
- 復職をしない意思表示をした
- 退職
- 未だ該当例なし

質問42 利用中止(利用中止とは施設側の判断として通所中の参加者の利用継続を停止すること)の決定者に関し、最も該当するもの1つに○を記入して下さい。

表42

n= 166

	件数	比率
リワーク施設管理医師	55	(33.1%)
リワーク施設スタッフ	19	(11.4%)
主治医	59	(35.5%)
判定会議	28	(16.9%)
その他	5	(3.0%)
合計	166	(100.0%)

質問42 利用中止(利用中止とは施設側の判断として通所中の参加者の利用継続を停止すること)の決定者に関し、最も該当するもの1つに○を記入して下さい。

(その他)

- リワーク担当医
- リワーク施設スタッフと主治医で相談し、決定する。
- 病状悪化の場合は連絡が途絶えてい
- リワークスタッフと主治医
- 当院医師の意見も踏まえ、スタッフと本人、家族との話し合いにより決定。

質問43 利用中止(利用中止とは施設側の判断として通所中の参加者の利用継続を停止すること)の場合の利用再開に関し、該当するものに○を記入して下さい。

表43-1

n= 166

	件数	比率
利用再開はできない	22	(13.3%)
利用再開ができる	144	(86.7%)
合計	166	(100.0%)

(「利用再開できる」と答えた方)

表43-2

n= 144

	件数	比率
利用再開時はプログラムの始めから	43	(29.9%)
利用再開時、プログラムの途中からも可	84	(58.3%)
その他	15	(10.4%)
未回答	2	(1.4%)
合計	144	(100.0%)

質問43 利用中止(利用中止とは施設側の判断として通所中の参加者の利用継続を停止すること)の場合の利用再開に関し、該当するものに○を記入して下さい。

(その他)

- 随時
- 計画を改めて作成
- 個別に検討
- 主治医、リワークスタッフと面談を行い決定する
- 状態をみて、都度判定
- 利用者に合わせて
- ケースによる
- 利用中止時の条件による
- 本人の状態や、プログラムの履修状況により、ケースバイケー
- 特にプログラムのステップは設けていないため、始めや途中というものは存在しな
- 規定なし 病状等により決定
- 医師の判断による。
- 3ヵ月再度調整リズム整えなど後判定会議で決定した後プログラム始めから開始
- 未だ該当Caseなし、状況に応じる

質問44 脱落の原因(脱落とは利用者側の都合により利用継続を停止すること)として、最も該当する理由上位2つを記入して下さい。

第1位

n= 166

	件数	比率
病状悪化により通所できない	91	(54.8%)
実家に帰省等、病状悪化を直接の原因としない理由で通所できない	2	(1.2%)
モチベーションの低下	27	(16.3%)
休職期間満了	4	(2.4%)
退職する意思を固めたため	9	(5.4%)
家族の協力がいないため	0	(0.0%)
金銭的な理由のため	1	(0.6%)
その他	4	(2.4%)
未回答	28	(16.9%)
合計	166	(100.0%)

第2位

n= 166

	件数	比率
病状悪化により通所できない	30	(18.1%)
実家に帰省等、病状悪化を直接の原因としない理由で通所できない	6	(3.6%)
モチベーションの低下	65	(39.2%)
休職期間満了	6	(3.6%)
退職する意思を固めたため	15	(9.0%)
家族の協力がいないため	1	(0.6%)
金銭的な理由のため	4	(2.4%)
その他	4	(2.4%)
未回答	35	(21.1%)
合計	166	(100.0%)

質問44 脱落の原因(脱落とは利用者側の都合により利用継続を停止すること)として、最も該当する理由上位2つを記入して下さい。

(その他)

- 集団になじめないため
- 回避してしまう 動機付が続かない
- 集団で過ごす、課題に取り組む、会話が苦痛 少人数なら良いが5人以上は苦痛との理由
- RWIに慣じめない。
- 復職意志の低さ。
- 腰痛など身体疾患の治療のため。
- アルコールを再開してしまう。

質問45 最長利用期間の設定に関し、該当するものに○を記入して下さい。

表45-1

n= 166

	件数	比率
開始時に定めている	66	(39.8%)
定めていない	99	(59.6%)
未回答	1	(0.6%)
合計	166	(100.0%)

定めている期間

表45-2

n= 66

	件数	比率
2.5か月	1	(1.5%)
3か月	4	(6.1%)
4か月	3	(4.5%)
6か月	11	(16.7%)
7か月	1	(1.5%)
8か月	1	(1.5%)
9か月	2	(3.0%)
11か月	1	(1.5%)
12か月	32	(48.5%)
18か月	1	(1.5%)
24か月	4	(6.1%)
未回答	5	(7.6%)
合計	66	(100.0%)
平均	10.4	

質問46 利用終了の明確な決定条件について、該当するものに○を記入して下さい。

表46

n= 166

	件数	比率
定めている	96	(57.8%)
定めていない	66	(39.8%)
未回答	4	(2.4%)
合計	166	(100.0%)

質問47 利用終了の決定条件に関し、最も該当するものを2つまで○を記入して下さい。
(質問46で「定めている」と答えた方)

表47

n= 96

	件数	比率
期限を設定している	33	(34.4%)
受け入れ先の条件(復職、休職満了など)による	64	(66.7%)
実施した評価の結果を見て	16	(16.7%)
出席日数・出席率による	18	(18.8%)
判定会議での決定	16	(16.7%)
利用者の意見によって決める	14	(14.6%)
その他	9	(9.4%)

質問47 利用終了の決定条件に関し、最も該当するものを2つまで○を記入して下さい。

(その他)

- 退職
- 主治医判断
- 主治医、スタッフ、本人で決めていく
- 本人と主治医によって決める
- 6に加え、主治医の意見
- スタッフと医師、スタッフと利用者の相方向的な話し合いによる
- 直近の参加日から3ヶ月経った時点で終了
- 主治医の判断
- 一連のプログラムを終了した方

質問48 復職時の勤務先企業との連絡や調整について、該当するものすべてに○を記入して下さい。
(質問46で「定めている」と答えた方)

表48

n= 96

	件数	比率
産業医・産業保健スタッフに 書面にて実施	60	(62.5%)
産業医・産業保健スタッフに 訪問にて実施	21	(21.9%)
産業医・産業保健スタッフに 診察にて実施	26	(27.1%)
産業医・産業保健スタッフに していない	13	(13.5%)
人事労務担当者に 書面にて実施	52	(54.2%)
人事労務担当者に 訪問にて実施	18	(18.8%)
人事労務担当者に 診察にて実施	33	(34.4%)
人事労務担当者に していない	19	(19.8%)
未回答	1	(1.0%)

質問49 復職後のフォロー体制について、該当するものにすべてに○を記入して下さい

表49

n= 166

	件数	比率
外来で診察	132	(79.5%)
スタッフが定期的に連絡、面談	43	(25.9%)
復職者専用のフォローアッププログラムへ参加	86	(51.8%)
休職者向けプログラムへ参加	11	(6.6%)
心理カウセリングの実施	49	(29.5%)
していない	2	(1.2%)
その他	26	(15.7%)
未回答	1	(0.6%)

質問49 復職後のフォロー体制について、該当するものにすべてに○を記入して下さい。

(その他)

- 希望者に個別面談
- 元の医療機関にもどる
- 利用修了者専用のフォローアッププログラムへの参加
- ナイトプログラムへの参加
- メールでの調査・体調等確認
- 交流会への参加
- 復職者の希望により、リワークスタッフが面談
- CBGT
- プログラム利用者、復職者の交流会を実施。
- リワーク中の人と復帰した人の現状共有のお茶会
- 電話相談や面談等。
- 本人希望面談、tel相談、DCに参加可
- リワークプログラムへの臨時参加
- メール相談
- 本人の希望があれば不定期に面談
- 必要に応じてカウンセリングを導入
- 不定期で診察時に面談する
- スタッフが復職者の要望に応じて、直接又はTELで面談
- リラクゼーションプログラム
- デイケア利用
- 通常のデイケアプログラムでフォロー
- 現在のプログラムへの不定期参加許可、希望時に連絡・面談
- OB・OG会。他院主治医は診察なし
- 一部プログラムへの参加
- ジョブコーチ制度を利用した。定期的な職場訪問、面談。
- 必要に応じてスタッフが面談

質問50 再休職後のプログラム再利用に関し、該当するものに○を記入して下さい。

表50-1

n= 166

	件数	比率
再利用は可能	151	(91.0%)
再利用は不可能	7	(4.2%)
その他	6	(3.6%)
未回答	2	(1.2%)
合計	166	(100.0%)

利用するプログラムで該当するものに○を記入
(「再利用は可能」と答えた方)

表50-2

n= 151

	件数	比率
初回利用者と同じプログラム	142	(94.0%)
別のプログラム	5	(3.3%)
未回答	4	(2.6%)
合計	151	(100.0%)

質問50 再休職後のプログラム再利用に関し、該当するものに○を記入して下さい。

(その他)

- ※全ての再休職者の利用は認めていない 休職となった要因状況等と判断し、利用を認めている
- 未定
- 原則として不可だが場合により初回利用者と同じプログラム利用。
- 本人の課題に応じた再プログラム
- 再利用については発生ベースで検
- 現在は該当者なし

実施しているプログラムの内容に関する情報

表51 実施形態 (n= 1683)

	n	%
①個人プログラム	257	15.3
②特定の心理プログラム	383	22.8
③教育プログラム	223	13.3
④集団プログラム	431	25.6
⑤その他のプログラム	381	22.6
未回答	8	0.5

表52 実施目的 (n= 1678)

	n	%
①症状自己管理	484	28.8
②コミュニケーション	567	33.8
③自己洞察	703	41.9
④集中力	354	21.1
⑤モチベーション	189	11.3
⑥リラクゼーション	252	15.0
⑦基礎体力	238	14.2
⑧感情表現	167	10.0
未回答	5	0.3

表53

	①個人プログラム (n=257)		②特定の心理プログラム (n=383)		③教育プログラム (n=223)		④集団プログラム (n=431)		⑤その他のプログラム (n=381)			
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%		
プログラム実施時期 (複数回答)	導入期	173	67.3	162	42.3	130	58.3	217	50.3	283	74.3	
	初期	206	80.2	244	63.7	171	76.7	278	64.5	326	85.6	
	中期	208	80.9	321	83.8	174	78.0	354	82.1	326	85.6	
	後期	206	80.2	300	78.3	147	65.9	349	81.0	292	76.6	
	終了期	178	69.3	251	65.5	125	56.1	314	72.9	278	73.0	
実施時間(分/週)	mean	165.5	SD	144.5	mean	109.7	SD	70.6	mean	94.1	SD	60.3
	初期	206.2	251.4	120.0	125.1	99.8	101.0	122.3	129.2	94.7	74.1	
	中期	226.1	284.3	125.8	147.5	106.5	131.6	135.6	172.3	97.6	77.5	
	後期	234.3	269.8	115.8	81.3	97.7	63.0	128.3	119.7	98.8	79.3	
	終了期	239.5	242.2	116.0	71.5	93.1	57.1	123.9	121.3	90.0	72.8	

表54

	①個人プログラム (n=257)		②特定の心理プログラム (n=382)		③教育プログラム (n=222)		④集団プログラム (n=430)		⑤その他のプログラム (n=380)		
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	
プログラムの目的 (2つまで選択)	①症状自己管理	45	17.5	173	45.3	185	83.3	38	8.8	42	11.1
	②コミュニケーション	10	3.9	146	38.2	22	9.9	299	69.5	88	23.2
	③自己洞察	67	26.1	283	74.1	126	56.8	142	33.0	81	21.3
	④集中力	211	82.1	13	3.4	5	2.3	72	16.7	50	13.2
	⑤モチベーション	59	23.0	24	6.3	18	8.1	53	12.3	33	8.7
	⑥リラクゼーション	9	3.5	22	5.8	11	5.0	57	13.3	153	40.3
	⑦基礎体力	15	5.8	0	0.0	8	3.6	59	13.7	156	41.1
	⑧感情表現	4	1.6	55	14.4	4	1.8	59	13.7	45	11.8

表55 医療機関ごとの実施状況

(n= 161)

	n	%	
実施状況	5区分すべて実施	83	51.6
	4区分実施	41	25.5
	3区分実施	26	16.1
	2区分実施	6	3.7
	1区分実施	5	3.1
実施形態の区分の内訳	①個人プログラム	135	83.9
	②特定の心理プログラム	139	86.3
	③教育プログラム	126	78.3
	④集団プログラム	146	90.7
	⑤その他のプログラム	128	79.5

登録者の利用状況に関する調査

表56 Q1.性別

性別	n= 3131	
	件数	%
男性	2302	73.5%
女性	829	26.5%
総計	3131	100.0%

表57 Q2.平均年齢

	n= 3107	
	平均年齢	標準偏差
男性	41.8	9.3
女性	37.7	9.8
総計	40.7	9.6

表58 Q3.主診断名

	n= 3105	
	件数	%
症状性を含む器質性精神障害 (F0)	4	0.1%
精神作用物質使用による精神および行動の障害 (F1)	20	0.6%
統合失調症、統合失調症型障害および妄想性障害 (F2)	112	3.6%
気分(感情)障害 (F3)	2424	78.1%
神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害 (F4)	424	13.7%
生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群 (F5)	4	0.1%
成人のパーソナリティおよび行動の障害 (F6)	23	0.7%
精神遅滞[知的障害] (F7)	6	0.2%
心理的発達の障害 (F8)	72	2.3%
小児期および青年期に通常発達する行動及び情緒の障害 (F9)	16	0.5%
総計	3105	100.0%

表59 Q4.双極Ⅱ型の可能性

	n= 3105	
	件数	%
なし	2250	72.5%
あり	855	27.5%
総計	3105	100.0%

表60 Q5.「発達障害」の可能性

	n= 3103	
	件数	%
なし	2311	74.5%
あり	792	25.5%
総計	3103	100.0%

表61 Q6.現在の就労状況

	n= 3082	
	件数	%
未就労	52	1.7%
失職中	374	12.1%
休業中	2203	71.5%
就労中	453	14.7%
総計	3082	100.0%

表62 Q7.婚姻状況

	n= 3128	
	件数	%
未婚	1706	54.5%
既婚	1422	45.5%
総計	3128	100.0%

表63 Q8.主治医

	n= 3126	
	件数	%
リワーク施設内	2013	64.4%
リワーク施設外	1113	35.6%
総計	3126	100.0%

表64 Q9.参加リハビリテーションの区分(複数回答)

	n= 3119	
	件数	%
デイケア	2242	71.9%
ショートケア	1776	56.9%
デイナイトケア	304	9.7%
ナイトケア	118	3.8%
精神科作業療法	75	2.4%
通院集団精神療法	56	1.8%
自費	0	0.0%
その他	0	0.0%
総計	4571	100.0%

表65 Q10.1週間あたりの利用予定日数

	n= 3105	
	件数	%
0日	51	1.6%
1日未満	108	3.5%
1日台	408	13.1%
2日台	313	10.1%
3日台	460	14.8%
4日台	435	14.0%
5日	1323	42.6%
6日	6	0.2%
7日	1	0.0%
総計	3105	100.0%
平均	3.5日	

表66 Q11.再利用者

	n= 3108	
	件数	%
初回	2581	83.0%
再利用	527	17.0%
総計	3108	100.0%

表67 Q12-1.今回のリワークの参加年

	n= 3113	
	件数	%
参加開始年		

2006	2	0.1%
2007	1	0.0%
2008	5	0.2%
2009	8	0.3%
2010	12	0.4%
2011	25	0.8%
2012	36	1.2%
2013	45	1.4%
2014	131	4.2%
2015	523	16.8%
2016	2325	74.7%
総計	3113	100.0%

表68 Q12-2.リワーク参加年2016年の内訳

n= 2325		
2016年	件数	%
1月	108	4.6%
2月	114	4.9%
3月	157	6.8%
4月	187	8.0%
5月	234	10.1%
6月	308	13.2%
7月	335	14.4%
8月	332	14.3%
9月	389	16.7%
10月	152	6.5%
11月	9	0.4%
総計	2325	100.0%

表69 Q13-1.休業開始年

n= 2861		
休業開始年	件数	%
1988	1	0.0%
1998	1	0.0%
1999	2	0.1%
2000	1	0.0%
2002	1	0.0%
2003	1	0.0%
2005	1	0.0%
2006	6	0.2%
2007	6	0.2%
2008	7	0.2%
2009	9	0.3%
2010	16	0.6%
2011	33	1.2%
2012	42	1.5%
2013	116	4.1%
2014	363	12.7%
2015	1052	36.8%
2016	1203	42.0%
総計	2861	100.0%

表70 Q13-2.休業開始年2015年の内訳

n= 1056		
2015年1月	件数	%
2015年1月	48	4.5%

2015年2月	51	4.8%
2015年3月	55	5.2%
2015年4月	82	7.8%
2015年5月	67	6.3%
2015年6月	106	10.0%
2015年7月	95	9.0%
2015年8月	83	7.9%
2015年9月	113	10.7%
2015年10月	136	12.9%
2015年11月	108	10.2%
2015年12月	112	10.6%
総計	1056	100.0%

表71 Q13-3.休業開始年2016年の内訳

n= 1199		
	件数	%
2016年1月	117	9.8%
2016年2月	144	12.0%
2016年3月	145	12.1%
2016年4月	174	14.5%
2016年5月	167	13.9%
2016年6月	182	15.2%
2016年7月	129	10.8%
2016年8月	83	6.9%
2016年9月	45	3.8%
2016年10月	12	1.0%
2016年11月	1	0.1%
総計	1199	100.0%

表72 Q14.休業回数

n= 2944		
	平均回数	標準偏差
休業回数	2.1	6.9

表73 Q15.総休業期間

n= 2884		
	平均日数	標準偏差
総休業期間	600.80	607.60

平成28年9月吉日

うつ病リワーク研究会
正会員医療機関 施設管理者様

うつ病リワーク研究会
代表世話人 五十嵐良雄

調査票記入に関するお願い

拝啓

仲秋の候、時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。平素は当研究会事業に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、うつ病リワーク研究会では、リワークプログラムを行っている正会員医療機関を対象に毎年1回、「リワーク活動に関する状況調査」を実施しております。今年度も例年と同様に書面による調査票をお送りいたします。調査票への回答のご記入と返信用封筒による返送のご協力をお願いいたします。

「リワーク活動に関する状況調査」結果につきましては、来年6月頃うつ病リワーク研究会ホームページに掲載予定でございます。

また、平成28年度労災疾病臨床研究「精神疾患により長期治療する労働者の病状の的確な把握方法及び治ゆの判断に係る臨床研究」の分担研究「治療プログラム実施機関における長期療養の就労（復職）に関する調査研究」に関するアンケート調査も同封しております。

以上の趣旨をご了承いただきまして、また、会則にもありますように会員の方々の研究に関するご協力を全会員からいただきたく、ご多忙のところ恐れ入りますが、送付いたしました調査票の記入に関してお願い申し上げます。

敬具

調査票（施設用）

本調査は、うつ病リワーク研究会の正会員所属医療機関であるリワーク施設に対する基礎調査として、年に1回実施しています。

当調査票の記入にあたり、本ページ下部の「ご記入欄」を記入の上、次ページの「記入要領」をご確認いただき各質問にお答えください。
本調査票における「リワーク」とは、復職支援を目的として貴院が提供しているリハビリテーション（治療、指導、援助）を指しています。

ご回答終了後、ご記入漏れや資料の添付漏れが無いかご確認いただき、同封した返信用封筒に入れて**2016年11月21日（月）**までに到着するようご返送ください。

お問合せ先

うつ病リワーク研究会事務局 担当：林

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-16-16 虎ノ門1丁目 MGビル 3F メディカルケア虎ノ門内

TEL：03-5512-1161 FAX：03-5512-1161

Email：information@utsu-rework.org

ご記入欄

記入者名	
医療機関名	

提出期限：2016年11月21日

記入要領

本調査票における「リワーク」とは、復職支援を目的として貴院が提供しているリハビリテーション（治療、指導、援助）を指しています。

本調査票は、以下のように構成されています。

A. リワーク施設情報	I. 医療機関、リワーク施設概要
B. リワークに関わるスタッフ情報	I. スタッフ作業
	II. スタッフ情報
C. リワークプログラム利用開始について	I. 利用開始時
	II. 受け入れ条件
D. リワーク・プログラムの運用について	I. 開始までの手続き
	II. 利用開始後のステップ
	III. 評価
	IV. 他院患者の受け入れ
	V. 通常プログラム以外の運用
	VI. 中止・脱落
	VII. 利用終了時
	VIII. 復職後のフォローと再利用
E. 実施しているプログラムに関する情報	I. プログラム内容
F. ホームページへの掲載について	I. リワーク施設情報提供

手順

「質問1.」より「質問5 2.」まで順に回答して下さい。途中、回答内容により指示がある場合は、指示に従ってお進みください。

「F. ホームページ掲載について」に関し、希望する施設の情報を掲載例の項目でうつ病リワーク研究会ホームページの会員リワーク施設一覧に掲載します。**掲載を希望する医療機関は「希望する」に忘れずに記入して下さい。**

2016年11月21日までに他の調査票とともに同封しました返信用封筒でご返信くださいますようお願いいたします。

A. リワーク施設情報

質問1. リワーク施設の属する医療機関について該当する箇所1つに○を記入して下さい。	1. 病院 2. 診療所 → 質問4. へお進みください 3. その他 → 質問4. へお進みください
質問2. 併設する精神科入院施設がある場合、精神科病棟は何床でしょうか。(無ければ0を記入)	_____床
質問3. 質問2のうち、ストレスケア病棟は何床でしょうか。(無ければ0を記入)	_____床

質問4. 貴リワーク施設で、認可を得ている診療報酬上の区分などに関してお答えください。

質問[4-1] リワークプログラムの実施にあたり 最も多くの人 数を診療報酬上算定しているのは以下のどれですか。該当するものを 1つ選択 して下さい。 1. デイケア 2. ショートケア 3. デイナイトケア 4. ナイトケア 5. 精神科作業療法 6. 通院集団精神療法 7. その他 ()	(記入例) ① デイケア 2. ショートケア 3. デイナイトケア 4. ナイトケア 5. 精神科作業療法 6. 通院集団精神療法 7. その他 ()	回答欄 1. デイケア 2. ショートケア 3. デイナイトケア 4. ナイトケア 5. 精神科作業療法 6. 通院集団精神療法 7. その他 ()
質問[4-2] 質問 [4-1] におけるリワークプログラムの定員数を記入して下さい。	(記入例) 20人	人
質問[4-3] 質問 [4-1] の回答以外に診療報酬上算定しているのは以下のどれですか。該当するものを すべて選択 して下さい。 1. なし 2. デイケア 3. ショートケア 4. デイナイトケア 5. ナイトケア 6. 精神科作業療法 7. 通院集団精神療法 8. その他 ()	(記入例) 1. なし 2. デイケア ③ ショートケア ④ デイナイトケア 5. ナイトケア 6. 精神科作業療法 7. 通院集団精神療法 8. その他 ()	回答欄 1. なし 2. デイケア 3. ショートケア 4. デイナイトケア 5. ナイトケア 6. 精神科作業療法 7. 通院集団精神療法 8. その他 ()
質問[4-4] デイケア、ショートケアを選択した場合、該当する規模を記入して下さい。	(記入例) ① 大規模 ・ 小規模	大規模 ・ 小規模
質問[4-5] リワークプログラムを始めた年(西暦)を記入して下さい。	(記入例) 2008年	年

<p>質問[4-6] リワークプログラムの1週間の開催日を記入して下さい。</p>	<p>(記入例) 月・火・水・木・金・土・日</p>	<p>月・火・水・木・金・土・日</p>
<p>質問[4-7] リワーク以外の対象者受入をしていますか。</p>	<p>(記入例) している・していない</p>	<p>している・していない</p>
<p>質問[4-8] [4-7]で「している」の場合、次の中からあてはまる対象をすべて選んで下さい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会生活機能改善を目的とした主に統合失調症患者 2. 居場所の提供を目的とした慢性期精神疾患患者 3. 各種依存症からの回復のための利用者 4. 社会適応技術の習得を目的とした発達障害者（思春期、成人とも） 5. 社会適応技術の習得を目的とした高次機能障害者 6. 社会適応技術の習得を目的としたパーソナリティ障害者 7. 生活支援を目的とした高齢者 8. 生活支援を目的とした介護、認知症患者 	<p>(記入例)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会生活機能改善を目的とした主に統合失調症患者 2. 居場所の提供を目的とした慢性期精神疾患患者 3. 各種依存症からの回復のための利用者 4. 社会適応技術の習得を目的とした発達障害者（思春期、成人とも） 5. 社会適応技術の習得を目的とした高次機能障害者 6. 社会適応技術の習得を目的としたパーソナリティ障害者 7. 生活支援を目的とした高齢者 8. 生活支援を目的とした介護、認知症患者 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会生活機能改善を目的とした主に統合失調症患者 2. 居場所の提供を目的とした慢性期精神疾患患者 3. 各種依存症からの回復のための利用者 4. 社会適応技術の習得を目的とした発達障害者（思春期、成人とも） 5. 社会適応技術の習得を目的とした高次機能障害者 6. 社会適応技術の習得を目的としたパーソナリティ障害者 7. 生活支援を目的とした高齢者 8. 生活支援を目的とした介護、認知症患者
<p>質問[4-9] [4-7]で「している」の場合、リワーク対象者とリワーク対象者以外のどちらの人数が多いですか。</p>	<p>(記入例) リワーク対象者・リワーク対象者以外</p>	<p>リワーク対象者 ・ リワーク対象者以外</p>
<p>質問[4-10] リワーク対象者とリワーク対象者以外の参加者に対し、一緒に実施するプログラムはありますか。</p>	<p>(記入例) ある・ない</p>	<p>ある ・ ない</p>
<p>質問[4-11] リワーク施設において医療専門職養成学校等の実習や研修を受け入れますか。</p>	<p>(記入例) 受け入れ可・受け入れ不可</p>	<p>受け入れ可 ・ 受け入れ不可</p>

B. リワークに関わるスタッフ情報

スタッフの作業についてお答えください。

質問5. 全スタッフが1日の利用者全員分の個別記録を作成するために要する時間(分)を記入して下さい。	のべ _____ 分/日 (1日当たりの所要時間 例: スタッフ10人で30分→300分)
質問6. 利用者1名の診療計画を作成するために要する時間(分)と作成回数(頻度)を記入して下さい。	_____ 分 (1名当たりの所要時間) _____ 回/月 (1ヶ月あたりの作成回数)
質問7. 毎日定例の打ち合わせ・業務連絡 以外 のスタッフミーティングに関し、実施頻度と実施時間をお答えください。	実施頻度 (1ヶ月間の実施回数、実施していない場合は0) _____ 回/月 実施時間 (1回あたりの所要時間: 分) _____ 分
質問8. ケースカンファレンスに関し、実施頻度と実施時間、参加者内訳をお答えください。	実施頻度 (1ヶ月間の実施回数、実施していない場合は0) _____ 回/月 実施時間 (1回あたりの所要時間 分) _____ 分 参加者内訳 (該当するものに○) 1. スタッフのみ 2. 医師も参加

質問9. リワークに関わる全スタッフに関し、以下の問いにお答えください。

スタッフNo.	[質問9-1]取得している主な資格に関し、以下から該当する番号をひとつ記入して下さい。 1 看護師、2 保健師、3 精神保健福祉士、4 作業療法士、5 理学療法士、6 臨床心理士、7 その他の心理職、8 産業カウンセラー、9 キャリア・コンサルタント、10 その他	[質問9-2]取得している主な資格 以外 の資格に関し、以下から該当する番号をすべて記入して下さい。 1 なし、2 看護師、3 保健師、4 精神保健福祉士、5 作業療法士、6 理学療法士、7 臨床心理士、8 その他の心理職、9 産業カウンセラー、10 キャリア・コンサルタント、11 その他	[質問9-3]性別 1 男性 2 女性	[質問9-4]2014年10月1日現在の年齢	[質問9-5]勤務形態 1 常勤 2 非常勤	[質問9-6]非常勤の場合の勤務日数(週あたり○日)	[質問9-7]非常勤の場合の勤務時間(週あたり○時間)	[質問9-8]主な資格・職種としての経験年数	[質問9-9]リワークプログラムの経験年数	[質問9-10]企業での就労経験 1 無し、2 産業保健スタッフとして就労、3 産業保健スタッフ以外、4 2と3両方
1	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11	1, 2	才	1, 2	日/週	時間/週	年目	年目	1, 2, 3, 4
2	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11	1, 2	才	1, 2	日/週	時間/週	年目	年目	1, 2, 3, 4
3	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11	1, 2	才	1, 2	日/週	時間/週	年目	年目	1, 2, 3, 4
4	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11	1, 2	才	1, 2	日/週	時間/週	年目	年目	1, 2, 3, 4
5	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11	1, 2	才	1, 2	日/週	時間/週	年目	年目	1, 2, 3, 4
6	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11	1, 2	才	1, 2	日/週	時間/週	年目	年目	1, 2, 3, 4
7	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11	1, 2	才	1, 2	日/週	時間/週	年目	年目	1, 2, 3, 4
8	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11	1, 2	才	1, 2	日/週	時間/週	年目	年目	1, 2, 3, 4
9	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11	1, 2	才	1, 2	日/週	時間/週	年目	年目	1, 2, 3, 4
10	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11	1, 2	才	1, 2	日/週	時間/週	年目	年目	1, 2, 3, 4
11	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11	1, 2	才	1, 2	日/週	時間/週	年目	年目	1, 2, 3, 4
12	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11	1, 2	才	1, 2	日/週	時間/週	年目	年目	1, 2, 3, 4
13	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11	1, 2	才	1, 2	日/週	時間/週	年目	年目	1, 2, 3, 4
14	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11	1, 2	才	1, 2	日/週	時間/週	年目	年目	1, 2, 3, 4
15	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11	1, 2	才	1, 2	日/週	時間/週	年目	年目	1, 2, 3, 4
16	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11	1, 2	才	1, 2	日/週	時間/週	年目	年目	1, 2, 3, 4
17	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11	1, 2	才	1, 2	日/週	時間/週	年目	年目	1, 2, 3, 4
18	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11	1, 2	才	1, 2	日/週	時間/週	年目	年目	1, 2, 3, 4
19	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11	1, 2	才	1, 2	日/週	時間/週	年目	年目	1, 2, 3, 4
20	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11	1, 2	才	1, 2	日/週	時間/週	年目	年目	1, 2, 3, 4

※20名を超える場合は、本調査票をコピーして使用して下さい。



C. リワーク・プログラムの利用開始について

利用開始時	質問10. 利用の最終の決定について最も適するもの1つに○を記入して下さい。	1. (他院を含む) 主治医が決める 2. 院長などの管理者が決める 3. (リワーク・デイケア) 担当医が決める 4. 会議で決める 5. その他 ()												
リワークプログラム受け入れの条件	質問11. プログラムへの受け入れの条件を定めていますか。	1. 定めている 2. 定めていない → 質問22. へお進みください。												
	質問12. プログラム受け入れにおいて本人の状態による条件を定めていますか。定めている場合は該当するもの上位3つまでに○を記入してください。	1. 定めていない 2. 定めている → 以下の該当するもの上位3つまでに○を記入 1. 規則的な睡眠リズムが回復している 2. 精神症状・身体症状が安定している 3. 集中力・理解力が回復している 4. 通所できる体力が回復している 5. 通所・復職への意欲が高い 6. その他 ()												
	質問13. リワークプログラム受け入れにおいて心理テストを実施していますか。該当するものに○を記入して下さい。また、「1. している」と答えた方は実施している心理テストについて記入して下さい。	1. している (種類と基準:) 2. していない												
	質問14. プログラム受け入れにおいて本人の生活レベルによる条件を定めていますか。定めている場合は該当するもの上位2つまでに○を記入してください。	1. 定めていない 2. 定めている → 以下の該当するもの上位2つまでに○を記入 1. 半日程度外出できる日が一定日ある (週__日以上) 2. 1日図書館通いできる日が一定日ある (週__日以上) 3. 身だしなみが整ってきた 4. 食生活のリズムが安定している 5. その他 ()												
	質問15. プログラム受け入れにおいて除外疾患の条件を定めていますか。定めている場合は、該当する疾患すべてに○を記入して下さい。	1. 定めていない 2. 定めている → 以下の該当する疾患すべてに○を記入 除外疾患 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>1. 気分障害以外すべて</td> <td>7. パニック障害</td> </tr> <tr> <td>2. 双極性障害</td> <td>8. 統合失調症</td> </tr> <tr> <td>3. アルコール依存症などの物質依存</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4. パーソナリティ障害</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5. 発達障害</td> <td>9. その他 ()</td> </tr> <tr> <td>6. 摂食障害</td> <td></td> </tr> </table>	1. 気分障害以外すべて	7. パニック障害	2. 双極性障害	8. 統合失調症	3. アルコール依存症などの物質依存		4. パーソナリティ障害		5. 発達障害	9. その他 ()	6. 摂食障害	
	1. 気分障害以外すべて	7. パニック障害												
	2. 双極性障害	8. 統合失調症												
3. アルコール依存症などの物質依存														
4. パーソナリティ障害														
5. 発達障害	9. その他 ()													
6. 摂食障害														
質問16. プログラム受け入れにおいて勤労状態の条件を定めていますか。定めている場合は該当するものすべてに○を記入してください。	1. 定めていない 2. 定めている → 以下の該当するものすべてに○を記入 1. 休職者を受け入れる 2. 失職者を受け入れる 3. 復職者、勤務中の者を受け入れる 4. その他 ()													
質問17. プログラム受け入れにおいて同一企業内の条件を定めていますか。定めている場合は該当するもの1つに○を記入して下さい。	1. 定めていない 2. 定めている → 以下の該当するもの1つに○を記入 同一企業内の場合 1. 同一企業内の社員は同時期に行わない 2. 同一企業内の社員で同時期でも実施する 3. 参加者の意思を確認し参加を決める 4. その他 ()													

<p>質問 18. 他院患者のプログラム受け入れにおいて主治医の条件を定めていますか。定めている場合は該当するもの1つに○を記入して下さい。</p>	<p>1. 定めていない (他院患者を主治医変更せずに受け入れ) 2. 定めている → 以下の該当するもの1つに○を記入</p> <p>主治医について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 主治医変更が必須 2. 原則的に主治医変更、ただし例外あり 3. 利用者の意思に任せる 4. 主治医変更しないがリワーク施設医師の定期受診が必須 5. その他 ()
<p>質問 19. プログラム受け入れにおいて年齢の条件を定めていますか。定めている場合はその年齢を記入して下さい。</p>	<p>1. 定めていない 2. 定めている → 以下に年齢の条件を記入</p> <p>年齢の条件は _____才以上、_____才以下</p>
<p>質問 20. プログラム受け入れにおいて学生の条件を定めていますか。定めている場合は該当するものに○を記入して下さい。</p>	<p>1. 定めていない 2. 定めている → 以下の質問にお答えください</p> <p>学生を</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 受け入れている 2. 受け入れていない 3. その他 ()
<p>質問 21. プログラム受け入れにおいて受け入れ会議を条件に定めていますか。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 定めていない 2. 受け入れ会議が必要 3. 特別な場合に受け入れ会議を開催する

D. リワーク・プログラムの運用について

開始までの手続き	質問 2 2. 利用開始前の見学に関し、 <u>該当するものに○</u> を記入して下さい。	1. 本人のみ可 2. 家族も可 3. 見学は不可
	質問 2 3. 利用前の試験利用（継続して参加するかを判断するために単発的に利用すること）に関し、 <u>該当するものに○</u> を記入して下さい。	1. 試験利用は可 ➡ 試験利用可能な日数 2. 試験利用は不可 _____ 日
	質問 2 4. 現時点におけるリワークプログラム開始までの待機期間（参加条件を満たしているが定員がいっぱいなため待機している期間）の有無に関し、 <u>該当するものに○</u> を記入して下さい。待機期間がある場合は日数を記入して下さい。	1. ある ➡ 待機期間がある場合の日数 2. ない _____ 日
	質問 2 5. プログラムの参加にあたり、利用規定はありますか。	1. ある 2. ない
	質問 2 6. プログラム参加にあたり、誓約書や同意書を取り交わしますか。	1. 取り交わす 2. 取り交わさない
利用開始後のステップ	質問 2 7. 参加者のプログラムの利用の仕方（参加する曜日や日数、時間、期間、プログラムなど）に関し、 <u>該当するものに○</u> を記入して下さい。	1. 本人の希望に任せる 2. 施設がルールを制定している 3. 利用者と施設側の医師やスタッフが相談し決定 4. その他 (_____)
	質問 2 8. プログラムの利用に関し、ステップ形式（回復状態や所定のルールにより参加日やプログラム内容について数段階のレベルを設定・運用している）を設定していますか。 <u>該当するものに○</u> を記入して下さい。	1. ステップなし 2. 段階的でステップ移行の条件が明確 3. 段階的だがステップ移行の条件は定めず ➡ 移行決定者は？ 1. スタッフ 2. 施設側医師 3. 他院主治医 4. 参加者 5. その他 4. その他 (_____)
	質問 2 9. プログラム開始時の1週間あたりの <u>最低利用日数が決められている場合はその日数を記入して下さい。また、参加者自身の希望により決定する場合は、認められている最低利用日数を記入して下さい。</u>	1. 最低利用日数 _____ 日/週 2. 最低利用日数は決めていない
	質問 3 0. 開始時と終了時それぞれにおける標準的な1週間のプログラム参加のべ時間を記入してください。	1. 開始時 _____ 時間/週 2. 終了時 _____ 時間/週
評価	質問 3 1. スタッフによる参加者の状態に対する個別評価の実施状況に関し、 <u>該当するものに○</u> を記入して下さい。	1. している 2. していない
	●質問 3 1で「1. している」と答えた方へ 質問 3 2. リワークプログラム利用中の個別評価に「標準化リワークプログラム評価シート」などのスケール（尺度）を使用していますか。該当するものに○を記入して下さい。また、「1. 使用している」と答えた方は実施しているスケールと実施時期について記入して下さい。「2. 使用していない」と答えた方は具体的な方法について記入して下さい。	1. 使用している ①. 「標準化リワークプログラム評価シート」について 使用していますか 1. 使用している 2. 使用していない ↓ 「標準化リワークプログラム評価シート」の評価項目について 1. 評価シートの項目のみ使用 2. 項目を任意に追加して使用 ②. 「標準化リワークプログラム評価シート」以外のスケールについて （種類と実施時期： _____) 2. スケールを使用していない （具体的評価方法： _____)

他院患者の受け入れ	質問33. リワークプログラムに他院患者を受け入れていますか。	1. 受け入れ可 2. 受け入れ不可  ※「2. 受け入れ不可」と答えた方は「質問39」へお進みください。
	●質問33で「1. 受け入れ可」と答えた方へ	
	質問34. 受け入れ可の場合、受入れ機関としての開始にあたっての決定プロセスについて、最も該当するもの1つに○を記入して下さい。	1. 他院の主治医が参加決定 2. 自院で独自に受け入れを評価し決定 3. その他 ()
	質問35. 受け入れ可の場合、主治医との連携方法について、最も該当するもの1つに○を記入して下さい。	1. 定期的に文書で連絡 2. 不定期に文書で連絡 3. 電話・口頭により連絡 4. 連絡を取っていない 5. その他 () }  ※「4. 連絡を取っていない」、「5. その他」と答えた方は「質問39」へお進みください。
	●質問35で「1. 定期的に文書で連絡」、「2. 不定期に文書で連絡」を答えた方へ	
	質問36. 主治医との連絡の際に使用する文書に関し、該当するものに○を記入して下さい。	1. 医師同士の診療情報提供書 2. リワーク専用の文書 3. その他 () ※「3. その他」と答えた方は「質問39」へお進みください。
通常プログラム以外の運用	●質問36で「1. 医師同士の診療情報提供書」、「2. リワーク専用の文書」と答えた方へ	
	質問37. 全ての参加対象者について主治医との連絡に文書を送付する頻度はどのくらいですか。	1ヶ月あたり _____ 回
	質問38. 主治医との連絡に文書を使用するにあたり診療報酬を請求していますか。	1. 請求している 2. 請求していない 3. その他 ()
	質問39. リワークプログラムを終了した利用者に対するプログラム等に関し、該当するものすべてに○を記入して下さい。	1. リワークの一環としての復職者向けフォローアッププログラム 2. 医療機関も関与するリワークプログラムの終了者と現在参加者との交流会 3. OB・OG・同窓会的な医療機関の関与しない自主イベント 4. スタッフ等の面談などによる診察以外の個別対応 5. なし 6. その他 ()
中止・脱落	質問40. リワークプログラムとは別に家族を対象としたプログラムに関し、該当するものに○を記入して下さい。	1. 家族プログラムがある ↓ 参加費用について該当するものに○を記入して下さい 1. 無料 2. 保険外 3. 保険適用 2. 家族プログラムはない
	質問41. 利用中止基準（利用中止とは施設側の判断として通所中の参加者の利用継続を停止すること）に関し、最も該当する理由1つに○を記入して下さい。	1. 症状の悪化以外の理由による欠席回数 2. 症状の悪化 3. 他のメンバーへの迷惑行為 4. 施設の設定したルール違反 5. その他 ()
	質問42. 利用中止（利用中止とは施設側の判断として通所中の参加者の利用継続を停止すること）の決定者に関し、最も該当するもの1つに○を記入して下さい。	1. リワーク施設管理医師 2. リワーク施設スタッフ 3. 主治医 4. 判定会議 5. その他 ()
	質問43. 利用中止（利用中止とは施設側の判断として通所中の参加者の利用継続を停止すること）の場合の利用再開に関し、該当するものに○を記入して下さい。	1. 利用再開はできない 2. 利用再開ができる → 1. 利用再開時はプログラムの始めから 2. 利用再開時、プログラム途中からも可 3. その他 ()

	<p>質問44. 脱落の原因（脱落とは利用者側の都合により利用継続を停止すること。例：症状悪化や実家に帰省などで通所できないなど）として、最も該当する理由上位2つを記入して下さい。</p>	<p>1. 症状悪化により通所できない 2. 実家に帰省等、症状悪化を直接の原因としない理由で通所できない 3. モチベーションの低下 第1位 _____ 4. 休職期間満了 5. 退職する意思を固めたため 6. 家族の協力がないため 第2位 _____ 7. 金銭的な理由のため 8. その他 ()</p>
	<p>質問45. 最長利用期間の設定に関し、該当するものに○を記入して下さい。</p>	<p>1. 開始時に定めている → どのくらいの期間 (_____ か月) 2. 定めていない</p>
	<p>質問46. 利用終了の明確な決定条件について、該当するものに○を記入して下さい</p>	<p>1. 定めている 2. 定めていない ※「2. 定めていない」と答えた方は「質問49」へお進みください。</p>
	●質問46で「1. 定めている」と答えた方へ	
プログラムの利用終了時	<p>質問47. 利用終了の決定条件に関し、最も該当するものを2つまで○を記入して下さい。</p>	<p>1. 期限を設定している 2. 受け入れ先の条件（復職、休職満了など）による 3. 実施した評価の結果を見て 4. 出席日数・出席率による 5. 判定会議での決定 6. 利用者の意見によって決める 7. その他 ()</p>
	<p>質問48. 復職時の勤務先企業との連絡や調整について、該当するものすべてに○を記入して下さい。</p>	<p>1. 産業医・産業保健スタッフに 書面にて実施 2. 産業医・産業保健スタッフに 訪問にて実施 3. 産業医・産業保健スタッフに 診察にて実施 4. 産業医・産業保健スタッフに していない 5. 人事労務担当者に 書面にて実施 6. 人事労務担当者に 訪問にて実施 7. 人事労務担当者に 診察にて実施 8. 人事労務担当者に していない</p>
復職後のフォローと再利用	<p>質問49. 復職後のフォロー体制について、該当するものすべてに○を記入して下さい。</p>	<p>1. 外来で診察 2. スタッフが定期的に連絡、面談 3. 復職者専用のフォローアッププログラムへ参加 4. 休職者向けプログラムへ参加 5. 心理カウンセリングの実施 6. していない 7. その他 ()</p>
	<p>質問50. 再休職後のプログラム再利用に関し、該当するものに○を記入して下さい。</p>	<p>1. 再利用は可能 ↓ ┌ 利用するプログラムで該当するものに○を記入 │ 1. 初回利用者と同じプログラム │ 2. 別のプログラム 2. 再利用は不可能 3. その他 ()</p>

E.実施しているプログラム内容に関する情報

プログラムを分類するにあたりⅠ. 実施区分、Ⅱ. 目的、Ⅲ. 実施時期 について質問します。次に各設問の内容について説明します。

Ⅰ. プログラムの標準化にあたり9施設を対象に実際に行われているプログラムの要素を抽出し、それらをグループ化してプログラムの全体像を明確にしました。その結果、プログラムの実施の仕組みや形態について以下の5つに区分しました。

区分名	内容
個人プログラム	他の参加者との交流を主な目的とせず、文字や数字、文章を扱う机上における作業を実施する中で、主に集中力・作業能力・実践力の確認や向上を目的として実施しているプログラム
特定の心理プログラム	認知行動療法、SST、対人関係療法、グループカウンセリング、サイコドラマなどの特定の心理療法を実施するプログラム
教育プログラム	疾病理解、症状の自己管理（セルフモニタリングとコントロール）を主目的とし、講師がいてテキストを使用するような講義形式で実施しているプログラム
集団プログラム	協同作業、役割分担、対人スキル向上などを主な目的として実施し、集団で行う意図が明らかなプログラム
その他のプログラム	軽スポーツ、個人面談、創造、動機付け等、上記の①～④のいずれにも該当しないプログラム

Ⅱ. プログラム標準化にあたりプログラムの目的をグループ化したところ、実施する目的として以下の8つに区分しました。

目的区分	内容
症状自己管理	疾病理解、セルフケア、再発予防など
コミュニケーション	コミュニケーションスキル向上、対人交流
自己洞察	行動の振り返り、自己理解、内省
集中力	作業能力・集中力の向上や確認
モチベーション	自己課題取組、動機づけ
リラクゼーション	心身のバランス、リラクセス法習得
基礎体力	体力向上、運動不足解消、ストレッチ
感情表現	非言語的感情表現、情操教育、カタルシス

Ⅲ. プログラムの実施時期について

先進的なリワークプログラム（以下、プログラム）を提供している全国の7 医療機関で実際に従事しているスタッフにより、プログラムの導入から終了後のフォローアップまでの流れと、個々

のプログラムの詳細な内容や実施上の注意点などについて比較・検討しました。その結果、プログラムの流れを導入期、初期、中期、後期、終了期（復職後のフォローアップを含む）の5期に分け、各期に行った方が良いプログラムや指示に関して次表のように27項目のポイントが示されました。

時期	目安・期のポイント	実施されるプログラムや指示
1. 導入期	開始1～4週 自宅療養からの環境の変化に付随する不安や恐れ、低下した自己評価などからプログラムへの参加の強い躊躇がしばしば起こります。この時期、症状は顕著な思考障害が改善し、プログラムの概要が理解出来る程度に回復している必要があります。	①不調時に医療機関を受診
		②主治医より休職指示
		③産業医面談などにより休職開始
		④a 主治医より指示
		b 産業医より指示
		c 主治医から復職可能の診断書
		d 本人、家族の意思
		⑤(外部の主治医を認めている施設と認めていない施設) 通所条件の確認
		⑥事前見学
		⑦オリエンテーション
2. 初期	開始3～12週 日々の僅かな変化から回復過程を実感し、復職への動機づけが高まりやすい時期だが、一方で焦りから過活動になる場合もあり、参加者自身が自分の状態を適切に把握・評価できる能力を伸ばすことが重要。	⑩オフィスワーク
		⑪心理教育
		⑫軽スポーツ
		⑬その他(アート、リラクゼーション、アロマセラピー)
		⑭個人面談
3. 中期	開始7～20週 課題は休職したことへの直面化で、過去の職場体験とプログラムでの体験が繋がりやすく、心理的負荷がかかる。一方で心身の十分な回復を実感しやすい時期でもあるり、より活動的になるため、生活リズムを乱すような課外活動や自己判断による断薬等も起こりやすくなる。	⑩〃 オフィスワーク(徐々に負荷を増やして)
		⑮集団認知行動療法
		⑯SST
		⑰アサーショントレーニング
		⑫〃 軽スポーツ(集団での役割を意識して)
		⑱プレゼン(集団での役割を意識して)
		⑲テーマトーク(集団での役割を意識して)
		⑭〃 個人面談(能動型利用)
		⑳内省・振り返り
		㉑復職時期の話し合い
㉒作業検査、心理検査		

		㉓グループ共同作業
4. 後期	開始 17 週～ 復職に向けての仕上げの時期。作業面、心理面での負荷を増やしても心身の調子を崩さず、支障なく参加できることが最低条件となる。	㉒´㉓´ 集団活動（リーダー役割をとってみる）
		㉒" 個人面談
		㉒´ S S T などのロールプレイ（職場を意識して）
5. 終了期	終了 4 週以内 終結に向かう時期は復職への意欲の反面、環境が再び変化するため不安定になりやすい。	㉒リワーク施設内評価会議
		㉒職場との連絡
		㉒復職判定面談への準備
		㉒"個人面談
復職後	復職後 復職後の再休職予防を目的	㉒Follow Up 面談

質問 5 1. 実施しているすべてのプログラムの内容について、以下の質問にお答えください。プログラム数が 10 を超える場合は、調査票をコピーして使用して下さい。

1. プログラム名 貴院で使用している名称を記入して下さい。

2. プログラム実施の形態として、次の①～⑤のうち最も該当するものを 1 つ選択して下さい

- ①個人プログラム ②特定の心理プログラム ③教育プログラム
④集団プログラム ⑤その他のプログラム

3. プログラムを実施する目的として、以下①～⑧のうち最も該当するものを 1 つあるいは 2 つ選択して下さい

- ①症状自己管理 ②コミュニケーション ③自己洞察 ④集中力
⑤モチベーション ⑥リラクセーション ⑦基礎体力 ⑧感情表現

4. 週当たりの実施時間（分）について、以下の 5 期のうち該当するすべての時期に○を記入し、平均的な実施時間（分）を記入して下さい。

- ①導入期 ②初期 ③中期 ④後期 ⑤終了期

記入例

1. プログラム名	認知行動療法プログラム		
2. プログラムの実施形態 (最も該当するもの一つ選択)	<input type="radio"/> ①個人プログラム <input checked="" type="radio"/> ②特定の心理プログラム <input type="radio"/> ③教育プログラム <input type="radio"/> ④集団プログラム <input type="radio"/> ⑤その他のプログラム		
3. プログラムの目的 (最も該当する者 2 つまで選択)	<input checked="" type="radio"/> ①症状自己管理 <input type="radio"/> ②コミュニケーション <input checked="" type="radio"/> ③自己洞察 <input type="radio"/> ④集中力 <input type="radio"/> ⑤モチベーション <input type="radio"/> ⑥リラクセーション <input type="radio"/> ⑦基礎体力 <input type="radio"/> ⑧感情表現		
4. 週当たりの実施時間 (分)		導入期 (開始 1 ~ 4 週)	
		初期 (開始 3 ~ 1 2 週)	
		中期 (開始 7 ~ 2 0 週)	
	<input type="radio"/>	後期 (開始 1 7 週~)	1 8 0 分
	<input type="radio"/>	終了期 (終了 4 週間以内)	1 8 0 分

※次ページより記入してください。

プログラムN o 1

1. プログラム名	
2. プログラムの実施形態 (最も該当するもの一つ選択)	①個人プログラム ②特定の心理プログラム ③教育プログラム ④集団プログラム ⑤その他のプログラム
3. プログラムの目的 (最も該当する者 2 つまで選択)	①症状自己管理 ②コミュニケーション ③自己洞察 ④集中力 ⑤モチベーション ⑥リラクゼーション ⑦基礎体力 ⑧感情表現
4. 週当たりの実施時間 (分)	導入期 (開始 1 ~ 4 週) 分
	初期 (開始 3 ~ 1 2 週) 分
	中期 (開始 7 ~ 2 0 週) 分
	後期 (開始 1 7 週~) 分
	終了期 (終了 4 週間以内) 分

プログラムN o 2

1. プログラム名	
2. プログラムの実施形態 (最も該当するもの一つ選択)	①個人プログラム ②特定の心理プログラム ③教育プログラム ④集団プログラム ⑤その他のプログラム
3. プログラムの目的 (最も該当する者 2 つまで選択)	①症状自己管理 ②コミュニケーション ③自己洞察 ④集中力 ⑤モチベーション ⑥リラクゼーション ⑦基礎体力 ⑧感情表現
4. 週当たりの実施時間 (分)	導入期 (開始 1 ~ 4 週) 分
	初期 (開始 3 ~ 1 2 週) 分
	中期 (開始 7 ~ 2 0 週) 分
	後期 (開始 1 7 週~) 分
	終了期 (終了 4 週間以内) 分

プログラムN o 3

1. プログラム名	
2. プログラムの実施形態 (最も該当するもの一つ選択)	①個人プログラム ②特定の心理プログラム ③教育プログラム ④集団プログラム ⑤その他のプログラム
3. プログラムの目的 (最も該当する者 2 つまで選択)	①症状自己管理 ②コミュニケーション ③自己洞察 ④集中力 ⑤モチベーション ⑥リラクセーション ⑦基礎体力 ⑧感情表現
4. 週当たりの実施時間 (分)	導入期 (開始 1 ~ 4 週) 分
	初期 (開始 3 ~ 1 2 週) 分
	中期 (開始 7 ~ 2 0 週) 分
	後期 (開始 1 7 週~) 分
	終了期 (終了 4 週間以内) 分

プログラムN o 4

1. プログラム名	
2. プログラムの実施形態 (最も該当するもの一つ選択)	①個人プログラム ②特定の心理プログラム ③教育プログラム ④集団プログラム ⑤その他のプログラム
3. プログラムの目的 (最も該当する者 2 つまで選択)	①症状自己管理 ②コミュニケーション ③自己洞察 ④集中力 ⑤モチベーション ⑥リラクセーション ⑦基礎体力 ⑧感情表現
4. 週当たりの実施時間 (分)	導入期 (開始 1 ~ 4 週) 分
	初期 (開始 3 ~ 1 2 週) 分
	中期 (開始 7 ~ 2 0 週) 分
	後期 (開始 1 7 週~) 分
	終了期 (終了 4 週間以内) 分

プログラムN o 5

1. プログラム名	
2. プログラムの実施形態 (最も該当するもの一つ選択)	①個人プログラム ②特定の心理プログラム ③教育プログラム ④集団プログラム ⑤その他のプログラム
3. プログラムの目的 (最も該当する者2つまで選択)	①症状自己管理 ②コミュニケーション ③自己洞察 ④集中力 ⑤モチベーション ⑥リラクセーション ⑦基礎体力 ⑧感情表現
4. 週当たりの実施時間 (分)	導入期 (開始1~4週) 分
	初期 (開始3~12週) 分
	中期 (開始7~20週) 分
	後期 (開始17週~) 分
	終了期 (終了4週間以内) 分

プログラムN o 6

1. プログラム名	
2. プログラムの実施形態 (最も該当するもの一つ選択)	①個人プログラム ②特定の心理プログラム ③教育プログラム ④集団プログラム ⑤その他のプログラム
3. プログラムの目的 (最も該当する者2つまで選択)	①症状自己管理 ②コミュニケーション ③自己洞察 ④集中力 ⑤モチベーション ⑥リラクセーション ⑦基礎体力 ⑧感情表現
4. 週当たりの実施時間 (分)	導入期 (開始1~4週) 分
	初期 (開始3~12週) 分
	中期 (開始7~20週) 分
	後期 (開始17週~) 分
	終了期 (終了4週間以内) 分

プログラムN o 7

1. プログラム名	
2. プログラムの実施形態 (最も該当するもの一つ選択)	①個人プログラム ②特定の心理プログラム ③教育プログラム ④集団プログラム ⑤その他のプログラム
3. プログラムの目的 (最も該当する者 2 つまで選択)	①症状自己管理 ②コミュニケーション ③自己洞察 ④集中力 ⑤モチベーション ⑥リラクセーション ⑦基礎体力 ⑧感情表現
4. 週当たりの実施時間 (分)	導入期 (開始 1 ~ 4 週) 分
	初期 (開始 3 ~ 1 2 週) 分
	中期 (開始 7 ~ 2 0 週) 分
	後期 (開始 1 7 週~) 分
	終了期 (終了 4 週間以内) 分

プログラムN o 8

1. プログラム名	
2. プログラムの実施形態 (最も該当するもの一つ選択)	①個人プログラム ②特定の心理プログラム ③教育プログラム ④集団プログラム ⑤その他のプログラム
3. プログラムの目的 (最も該当する者 2 つまで選択)	①症状自己管理 ②コミュニケーション ③自己洞察 ④集中力 ⑤モチベーション ⑥リラクセーション ⑦基礎体力 ⑧感情表現
4. 週当たりの実施時間 (分)	導入期 (開始 1 ~ 4 週) 分
	初期 (開始 3 ~ 1 2 週) 分
	中期 (開始 7 ~ 2 0 週) 分
	後期 (開始 1 7 週~) 分
	終了期 (終了 4 週間以内) 分

プログラムN o 9

1. プログラム名	
2. プログラムの実施形態 (最も該当するもの一つ選択)	①個人プログラム ②特定の心理プログラム ③教育プログラム ④集団プログラム ⑤その他のプログラム
3. プログラムの目的 (最も該当する者2つまで選択)	①症状自己管理 ②コミュニケーション ③自己洞察 ④集中力 ⑤モチベーション ⑥リラクセーション ⑦基礎体力 ⑧感情表現
4. 週当たりの実施時間 (分)	導入期 (開始1～4週) 分
	初期 (開始3～12週) 分
	中期 (開始7～20週) 分
	後期 (開始17週～) 分
	終了期 (終了4週間以内) 分

プログラムN o 10

1. プログラム名	
2. プログラムの実施形態 (最も該当するもの一つ選択)	①個人プログラム ②特定の心理プログラム ③教育プログラム ④集団プログラム ⑤その他のプログラム
3. プログラムの目的 (最も該当する者2つまで選択)	①症状自己管理 ②コミュニケーション ③自己洞察 ④集中力 ⑤モチベーション ⑥リラクセーション ⑦基礎体力 ⑧感情表現
4. 週当たりの実施時間 (分)	導入期 (開始1～4週) 分
	初期 (開始3～12週) 分
	中期 (開始7～20週) 分
	後期 (開始17週～) 分
	終了期 (終了4週間以内) 分

F. ホームページへの掲載について

うつ病リワーク研究会ホームページ (<http://www.utsu-rework.org>) の「会員リワーク施設一覧」ページに以下の項目についてリワーク施設情報を掲載しています。

医療機関名、リワーク施設名、所在地、電話番号、施設区分、実施曜日、実施時間、保険適用、勤労状況の条件、主治医の条件、主なプログラム、心理療法的手法の有無、リンク先ホームページアドレス

今後、受診希望者やご家族、支援者、企業産業医・産業保健スタッフ、人事労務担当者に向けて更なる情報提供を検討していますので、以下の回答をお願いいたします。

質問 5 2. うつ病リワーク研究会のホームページに上記の情報を公開することを希望しますか。

1. 希望しない
2. 希望する



※「2. 希望する」に記入したリワーク施設につきましてはうつ病リワーク研究会事務局で掲載情報を取りまとめ公開いたします。

質問 5 2. 「2. 希望する」と回答された方は、以下についてお答えください。

最寄りの交通機関、駅名、徒歩〇分	
主な患者様の住居地	
主な患者様の利用する交通機関	
アウトカム（参加人数などのデータ）のリンク先アドレス	
その他医療機関の特徴	

ご協力ありがとうございました。

「リワークプログラム実施状況に関する研究」

調査票(個人用)

記入要領

当調査票は、「リワークプログラム実施状況に関する研究」に使用する調査票です。当調査票の記入にあたり、以下の点をご確認下さい。

2016年10月1日(土)から7日(金)の7日間に、リワークプログラムを実施している施設において、その日にデイケア、ショートケア、デイナイトケア、ナイトケア、精神科作業療法、集通院団精神療法、または自費参加によるリワークプログラムに登録されている方、および登録制度がない場合はこの期間中に参加した方、について利用者1名につき1枚記入して下さい。

質問項目は全15項目となっております。いずれの項目もプログラム導入面接で把握するような利用者に関する基本的な情報です。

(注意点)

①基準日は2016年10月1日(水)とします。

②Q13～15(休業に関する質問)

『休業』とは、精神疾患等の理由により一定期間以上会社を休んでいる状態を指します。

質問項目14の総休業期間に関しては、1カ月を30日に換算し、利用者から得られる情報をもとに記入して下さい(利用者が「3ヶ月くらい休んでいました」と述べていれば、その時の休業期間は90日として下さい)。

Q6で「未就労」の方につきましては、Q13、Q14、Q15の回答は不要です。

調査票を20部送付しています。不足する場合はコピーしてご記入ください。

ご記入漏れや資料の添付漏れが無いか確認いただき、同封した返信用封筒に入れて2016年11月21日(月)までに到着するようご返送ください。

お問合せ先

うつ病リワーク研究会事務局 担当:林

〒105-0001東京都港区虎ノ門1-16-16-3F(メディカルケア虎ノ門内)

TEL:03-5512-1161 FAX:03-5512-1161

Email:information@utsu-rework.org

記入者名	
医療機関名	
記入年月日	2016年 月 日

提出期限:2016年11月21日(月)

「登録者の利用状況に関する調査」の整理に利用ください。
ご利用いただいた当リストの提出は不要です。

利用者 ナンバー	氏名
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	
17	
18	
19	
20	

利用者 ナンバー	氏名
21	
22	
23	
24	
25	
26	
27	
28	
29	
30	
31	
32	
33	
34	
35	
36	
37	
38	
39	
40	

登録者の利用状況に関する調査

利用者1名ごとに1枚調査票を作成してください。

利用者NO ※付属リストに氏名を記入し、利用者番号のみ左欄にご記入下さい。

リストは提出不要ですが、保管しておいてください。のちに、調査項目の不明な点について問い合わせをさせていただきます際に利用者番号でお聞きますので、その際に氏名のご確認に利用してください。

Q1 性別について該当する箇所に○を記入してください。	1. 男性 2. 女性
Q2 年齢を記入してください。	歳
Q3 主診断としてICD診断名で該当する箇所に <u>ひとつ</u> ○を記入してください。	1. 症状性を含む器質性精神障害(F0) 2. 精神作用物質使用による精神および行動の障害(F1) 3. 統合失調症、統合失調症型障害および妄想性障害(F2) 4. 気分(感情)障害(F3) 5. 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害(F4) 6. 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群(F5) 7. 成人のパーソナリティおよび行動の障害(F6) 8. 精神遅滞[知的障害](F7) 9. 心理的発達の障害(F8) 10. 小児期および青年期に通常発達する行動及び情緒の障害(F9)
Q4 DSM5による「双極Ⅱ型障害」の可能性はありますか？	1. なし 2. あり
Q5 DSM5による「自閉症スペクトラム障害(ASD)や注意欠如・多動性障害(AD/HD)」の可能性はありますか？	1. なし 2. あり
Q6 現在の就労状況は？	1. 未就労(今までに一度も就労していない) 2. 失職中(就労していたが、辞めてしまった) 3. 休業中(在職中で、主治医の診断書により一定期間出勤していない) 4. 就労中(復職後フォローアッププログラムに参加など)
Q7 婚姻状況について記入して下さい。	1. 未婚 2. 既婚
Q8 主治医はどちらですか？	1. リワーク施設内 2. リワーク施設外
Q9 本人が登録(参加)しているリハビリテーションの区分について該当する箇所すべてに○を記入して下さい。	1. デイケア 2. ショートケア 3. デイナイトケア 4. ナイトケア 5. 精神科作業療法 6. 通院集団精神療法 7. 自費 8. その他
Q10 現在の1週間あたりの利用予定日数は何日ですか？	日/週
Q11 リワークプログラムの再利用者(リワークプログラムの利用中止、脱落した者、または復職後再休職した者)ですか？	1. いいえ(初回利用者) 2. はい(2回目以上)
Q12 今回のリワークへの参加開始日はいつですか？	年(西暦) 月 日
Q13 今回の休業開始日はいつですか？	年(西暦) 月 日
Q14 今までの休業回数は今回を含め何回ですか？	回
Q15 今までの総休業期間は何日ですか？	日(例えば、総休職期間が2年であれば730日)